

中泉十王堂遺跡 4

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2021

群馬グランディハウス 株式会社
高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市中泉町字十王堂 78 番 1、78 番 2、79 番 1、79 番 3、に所在する「中泉十王堂遺跡 4」（高崎市遺跡調査番号 808）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、群馬グランディハウス株式会社様、地権者様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財係
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、令和 2 年 7 月 13 日から令和 2 年 9 月 30 日までの期間で実施した。調査面積は、401.64㎡である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量及び遺構平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
青木 あつ子・川端 勝・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・静野 佳春・清水 萬年・円谷 純・畠山 弘輝・渡 明秀
- 12 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標 IX 系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 遺物実測図において須恵器の断面は黒塗り、灰釉陶器の断面は 70%、土師器の断面は白抜きで表現した。
- 5 遺物実測図において反転復元実測をした個体は口縁部線と中心線を離して表現した。
- 6 掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 7 掲載図中に使用した断面図において、使用面は太線で表現した。
- 8 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C …………… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
Hr-FA …………… 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」
Hr-FP …………… 6 世紀中葉降下「榛名二ツ岳火山軽石」
As-B …………… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A …………… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	24
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図	周辺遺跡図(1/25,000)	3
第2図	遺跡位置図(1/2,500)	4
第3図	基本堆積土層(調査区南側) 柱状図・写真	4
第4図	遺跡全体図(1/200)	5
第5図	1号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)	11
第6図	2号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) 出土遺物図(1/3)	12
第7図	3号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60)	12
第8図	3号竪穴建物 カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)	13
第9図	4号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) 出土遺物図(1/3)	14
第10図	5号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)	15
第11図	6号竪穴建物平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)	16
第12図	1号井戸平面図・断面図(1/40)	17
第13図	2号井戸平面図・断面図(1/40)	17
第14図	1号溝平面図・断面図(1/60) 出土遺物図(1/3)	18
第15図	2号溝平面図・断面図(1/60)	18
第16図	1号土坑 平面図・断面図(1/40)	19
第17図	2号土坑 平面図・断面図(1/40) 出土遺物図(1/3)	19
第18図	3号土坑 平面図・断面図(1/40)	20
第19図	4号土坑 平面図・断面図(1/40)	20
第20図	5～12号土坑 平面図・断面図(1/40) 6号土坑出土遺物図(1/3)	21
第21図	1～10号ピット 平面図・断面図(1/40)	22
第22図	調査区西側 畠 平面図 トーン部は覆土が Hr-FA 主体の畠(1/100)・断面図(1/40)	22
第23図	調査区東側 畠 平面図 トーン部は覆土が Hr-FA 主体の畠(1/100)・断面図(1/40)	23
第1表	土坑・ピット計測表(単位cm)	10
第2表	出土遺物観察表(単位cm)	23

写真図版

PL1:空撮写真	PL2:調査写真	PL3:調査写真	PL4:調査写真	PL5:調査写真	PL6:調査写真
PL7:調査写真	PL8:調査写真	PL9:調査写真	PL10:調査写真	PL11:出土遺物写真	

I 調査に至る経緯

令和元年7月中旬、事業者である群馬グランディハウス株式会社から、高崎市中泉町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である奈良平安No.46遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和元8月19日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和元年10月7日に確認調査を実施した。その結果、古代の集落遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「中泉町字十王堂遺跡第4次調査」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和2年6月11日に事業者：群馬グランディハウス株式会社・民間調査機関：有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約55～65cm下であることが確認されている為、令和2年7月14日に重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘調査通り竪穴建物跡および溝等が確認され、調査区南側からは畠跡を検出した。

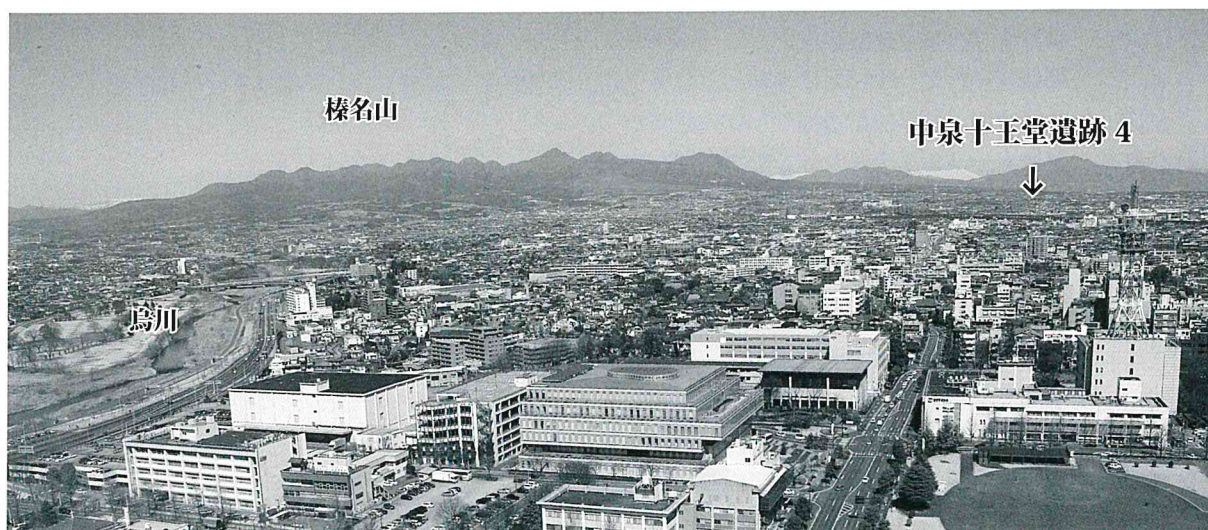
検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を取得しながら調査を行った。写真は35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量はトータルステーションを使用し作成した。全ての遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。その後、基本土層を確認する為に深掘りを行った。令和2年9月25日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

- 7月13日 現場調査準備 発掘器材搬入
- 7月14日 重機による表土除去作業開始 遺構確認作業
- 7月15日 遺構確認作業 竪穴建物跡および溝・土坑検出
- 7月21日 遺構確認作業 畠跡検出
- 7月27日 遺構確認作業 本日にて重機による表土除去作業終了 試掘トレンチ掘り下げ作業開始
- 8月3日 畠跡検出 全景撮影後掘り下げ作業開始
- 8月5日 畠跡トータルステーションによる平面測量
- 8月17日 各土坑・溝掘り下げ作業開始
- 8月24日 各竪穴建物跡掘り下げ作業開始
- 9月11日 トータルステーションによる各竪穴建物平面測量・出土遺物取り上げ作業
- 9月18日 ラジコンヘリコプターによる空撮実施
- 9月23日 各竪穴建物掘り方調査開始
- 9月25日 高崎市教育委員会による完了確認検査
- 9月28日 トータルステーションによる各竪穴建物掘り方平面図測量・基本堆積確認の為の深掘り作業
- 9月30日 本日にて現地調査終了 現場撤収作業

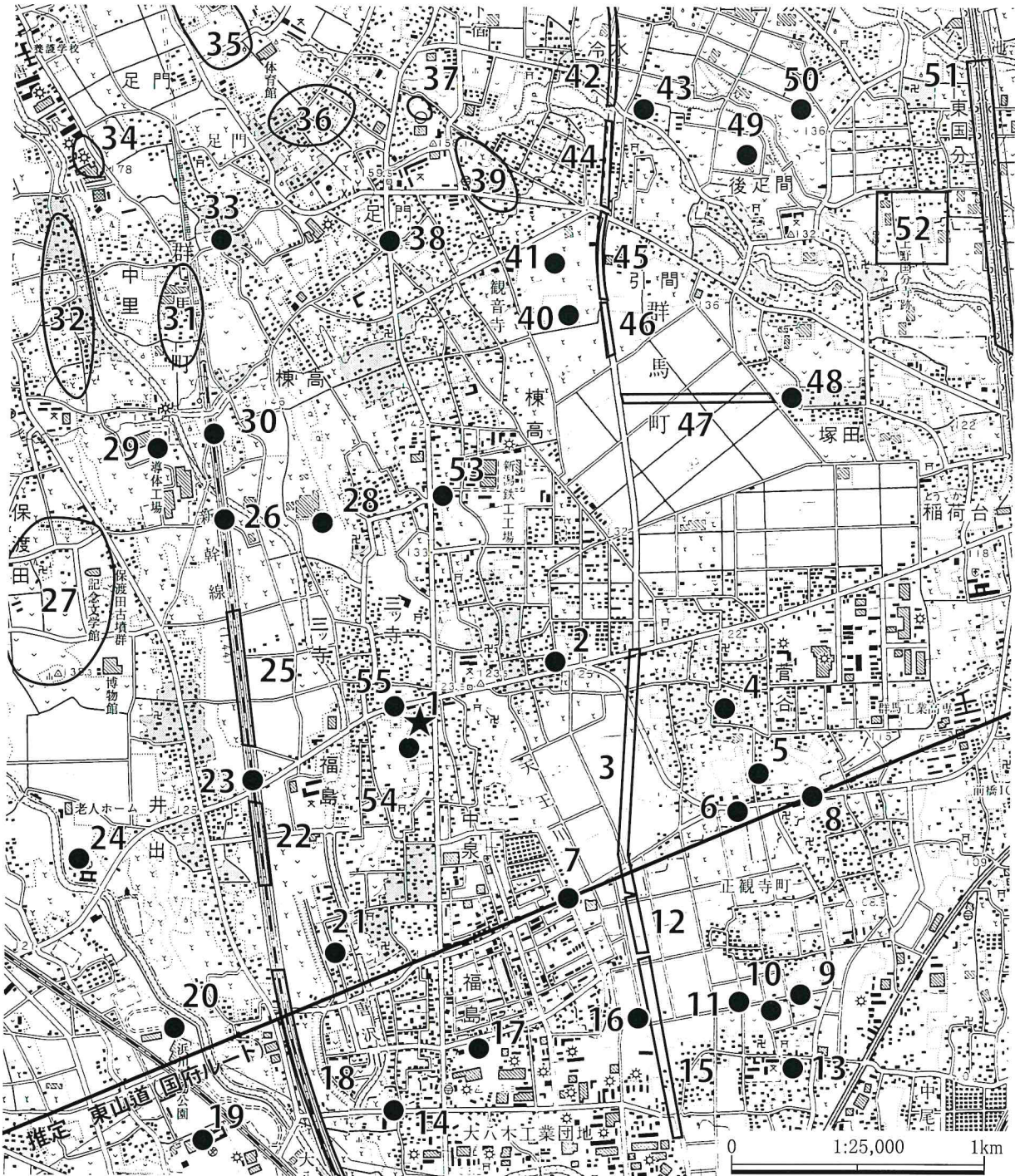
Ⅲ 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。中泉十王堂遺跡 4 は、高崎市街地の北方向、県道 10 号線と県道 25 号線の交差点三ツ寺の信号から西約 130 m に位置し、高崎市中泉町字十王堂に所在する。本遺跡付近は、榛名山南東に形成された相馬ヶ原扇状地の扇端部にあり、北西から南東に向い緩傾斜している。扇状地南部は八幡川、牛池川、染谷川、天王川、唐沢川等の小河川が侵食谷と自然堤防状の帯状微高地を発達させ、複雑な地形を形成している。本遺跡は、唐沢川と天王川に挟まれた幅約 700 m 程の帯状微高地にあり、標高は 123.9 m である。

周辺遺跡としては縄文時代前期から生活の痕跡が確認されている。前期から中期の遺跡として西浦北遺跡 (21)、上野国分僧寺・尼寺中間遺跡 (51)、大八木箱田池遺跡 (17) があり、後期の遺跡として敷石住居が検出された小八木志志貝戸遺跡 (15) がある。弥生時代中期後半になると熊野堂遺跡 (18)、雨壺遺跡 (14) のように集落が徐々に増加し、後期後半においては小規模な集落が多く存在するようになる。西浦北遺跡 (21)、井出村東遺跡 (22)、西三社免遺跡 (46)、熊野堂遺跡 (18)、正観寺遺跡群 (11) 等があげられる。古墳時代においては前代以上に集落の増加が認められ、井出村東遺跡 (22)、三ツ寺Ⅱ遺跡 (25)、三ツ寺Ⅲ遺跡 (26)、棟高遺跡群 1 (40)、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡 (41)、正観寺遺跡群等では多くの住居跡が検出されている。また、三ツ寺Ⅰ遺跡 (23) では豪族居館が検出され、隣接して保渡田古墳群 (27) が存在している。榛名山二ツ岳形成期における火山災害復興後の古墳時代後期から終末期になると、本遺跡から北西約 1.4km に毘沙門古墳群 (31)、屋敷古墳群 (32)、北東約 1.5km には北寝保窪古墳群 (39) が構築られ、標高 150m 付近より高い位置では、数多くの群集墳が形成されるようになる。奈良・平安時代にかけても遺跡は増加する傾向にあり、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、熊野堂遺跡では数多くの住居跡が検出されている。また、本遺跡の南 1km には推定東山道が東西に走行し、国府推定地が東北東約 3.5km に存在している。生産遺構としては同道遺跡 (24)、御布呂遺跡 (20)、芦田貝戸遺跡 (19)、熊野堂遺跡、菅谷石塚遺跡 (3) 等で As-C 及び Hr-FA、Hr-FP の火山噴出物により被災し埋没した古墳時代の水田跡が検出されており、西浦北遺跡、棟高遺跡群 1、棟高水窪Ⅱ・棟高辻の内Ⅳ遺跡、西国府新田遺跡 (42)、冷水村東遺跡 (44) では畝跡が検出されている。平安時代には、As-B により埋没した水田跡である芦田貝戸遺跡、御布呂遺跡、正観寺遺跡群、井出村東遺跡、三ツ寺Ⅱ遺跡等も集落に隣接した低地より検出され、前代から引き続き活発な生産活動が営まれた様子が伺える。このように、本遺跡周辺は縄文時代以降、各時代における遺跡が多く分布する地域として周知されている。



高崎市役所からの遠景（北を望む）



1. 本遺跡 2. 棟高東弥三郎街道遺跡 3. 菅谷石塚遺跡 4. 菅谷城跡 5. 菅谷遺跡群 6. 正観寺諏訪廻 I 遺跡 7. 福島飛地遺跡 (推定東山道) 8. 高貝戸遺跡 (推定東山道) 9. 正観寺八木境遺跡 10. 中川遺跡 11. 正観寺遺跡群
12. 正観寺西原遺跡 13. 小八木宅地添遺跡 14. 雨壺遺跡 15. 小八木志志貝戸遺跡 16. オトウカ山古墳 17. 大八木箱田池遺跡 18. 熊野堂遺跡 19. 芦田貝戸遺跡 20. 御布呂遺跡 21. 西浦北遺跡 22. 井出村東遺跡 23. 三ツ寺 I 遺跡 24. 同道遺跡 25. 三ツ寺 II 遺跡 26. 三ツ寺 III 遺跡 27. 保渡田古墳群 28. 堤上遺跡 29. 保渡田東遺跡
30. 保渡田遺跡 31. 毘沙門古墳群 32. 屋敷古墳群 33. 薬師堂古墳 34. 足門村西古墳群 35. 寺屋敷古墳群 36. 鶴巻古墳群 37. 東久保古墳群 38. 観音寺古墳 39. 北寝保窪古墳群 40. 棟高遺跡群 I 41. 棟高水窪 II・棟高辻の内 IV 遺跡 42. 西国分新田遺跡 43. 北谷遺跡 44. 冷水村東遺跡 45. 小池遺跡 46. 西三社免遺跡 47. 棟高辻久保遺跡 48. 引間六石遺跡 49. 後疋間遺跡群 50. 西国分遺跡群 51. 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡 52. 上野国分僧寺 53. 棟高南八幡街道遺跡 54. 中泉十王堂遺跡 55. 中泉十王堂遺跡 2

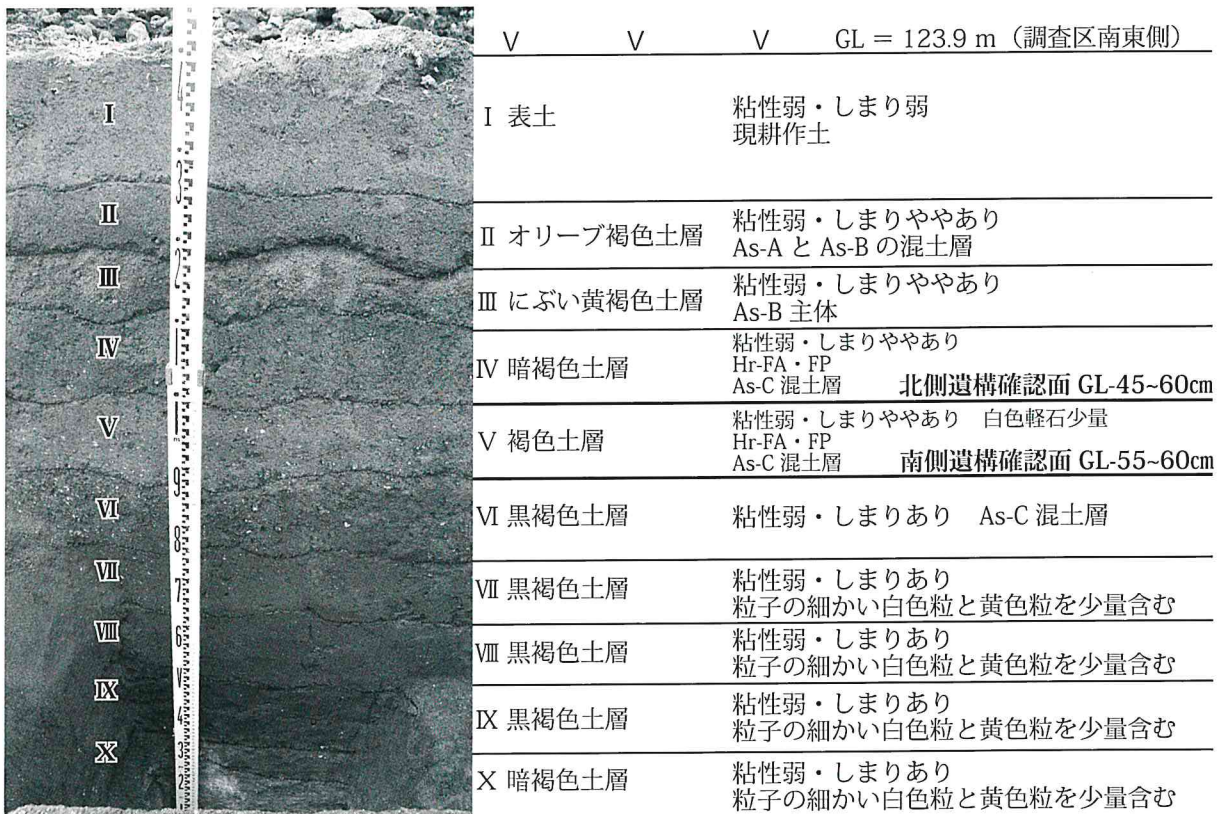
第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)



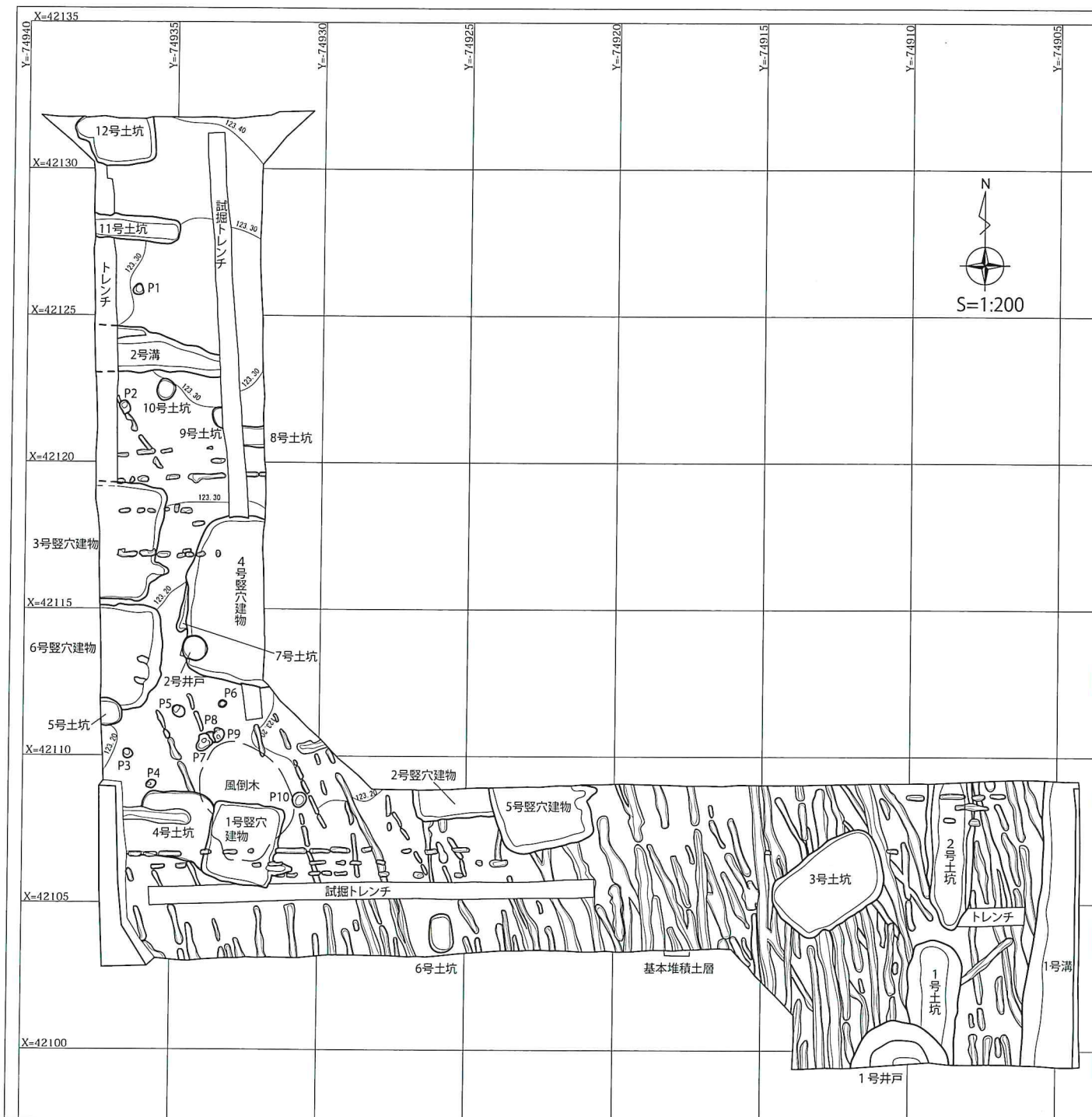
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

I層は現表土で約15cm程堆積している。現在の耕作土の為、粘性および締まりともに弱い。II層はAs-AとAs-Bの混土層で調査区南側では10cm程度の堆積であるが、調査区北西側になると約25cmと厚く堆積している。III層はAs-B主体の層で、調査区南側のみで確認された。IV層はAs-Bを含まず、Hr-FAとHr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石を含む層で本層下が北側での遺構確認面である。V層もHr-FAとHr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石の混土で、本層下が南側での遺構確認面である。またV層は南北方向を軸にとる畠跡の耕作土でもあり、現地表から約65cm下である。VI層はAs-C混土層で10～15cm程調査区全体で堆積が確認されており、調査区北西および南側の一部分でAs-C軽石の凝集層が認められた。VII～IX層は粒子の細かい白色粒と黄色粒を少量含む黒色土で、X層が黒色土と基盤の黄色土との漸移層となり粘性が強くて硬く締まっている。X層以下の層は2号井戸の北壁を使用した土層観察(PL10)にて、XIV層まで確認された。ともに粘性が強く、やや砂質の粘質土で一部鉄分の沈着がみられる。現地表から約2.5mにて湧水が認められた。



第3図 基本堆積土層(調査区南側) 柱状図・写真



第4図 遺跡全体図 (1/200)

V 調査の成果

発掘調査の結果、竪穴建物 6 軒、井戸 2 基、溝 2 条、土坑 12 基、ピット 10 基、Hr-FA 混土を覆土にもつ畠跡と As-A、B 粒の混土を覆土にもつ畠跡を検出した。畠跡は調査区中央から南側に限定されて検出されており、北側では検出されなかった。竪穴住居は調査区中央付近にまとまって検出された。

竪穴建物跡

1 号竪穴建物

調査区南西側にて検出された。規模は南北 2.81 m、東西 2.37 m で、確認面から床面までの深さは約 36cm である。4 号土坑および北側が風倒木と重複しており、本遺構が一番新しい。風倒木により基盤層が隆起している為、北壁および掘り方面は、黄色土である。床面は平坦で、全体的に硬くしまっている。カマドは東壁南寄りに設置され、壁から外側に約 68cm 造り出して構築されている。両袖とも芯材に礫が使用され、右袖は 2 石積みで、左袖は 1 石を立てて芯とし、その後地山褐色粘土を被覆し構築している。壁面の被熱は弱く顕著な焼土面はない。燃焼部下幅は約 30cm で、底面には若干の灰層が認められる。燃焼部左寄りに支脚と考えられる礫が立ち、礫上部は煤が付着して黒色化している。建物の掘り方は浅く、比較的平坦である。遺物はカマド前から No. 1 が、掘り方から No. 2 が出土した。出土した遺物から帰属時期は 9 世紀代であると考えられる。

2 号竪穴建物

調査区南側中央部にて検出された。北側が調査区外になり、東側は 5 号竪穴建物に破壊されている為詳細は不明であるが、規模は南北 1.05 m 以上、東西 2.08 m 以上で、確認面から床面までの深さは約 56cm である。5 号竪穴建物より本遺構の方が古い。床面は平坦で、全体的に硬くしまっている。カマドは確認されなかったが、東側の床面にて灰が検出され調査区壁での土層観察にて調査区外に広がっている様子が伺える為、5 号竪穴建物により破壊されているが、東側にカマドが設置されていたと考えられる。その他の施設は確認されなかった。建物の掘り方は浅いが凹凸が多い。遺物は床面から No. 3、4 が、掘り方から No. 5 が出土した。出土した遺物から帰属時期は 9 世紀中頃から後半頃であると考えられる。

3 号竪穴建物

調査区西側にて検出された。規模は南北 4.21 m、東西 2.43 m 以上で、確認面から床面までの深さは約 42 cm である。床面は全体的に平坦でカマド前面および建物中央付近が硬くしまっている。柱穴は検出されなかった。カマドは東壁南寄りに設置され、壁から外側に約 53cm 造り出して構築されている。袖部の構築土は残存せず、芯材の礫が露呈した状態で検出され、焚口部に構築材と考えられる礫が 2 石崩落している。燃焼部下幅は約 33cm で、左側に支脚と考えられる礫が立ち、奥壁に礫が 1 石立てられている。被熱は弱く、燃焼部奥の側壁に若干の焼土化がみられる。顕著な灰層は無いが、底面に炭化物と灰の混土層が認められる。建物の掘り方は浅く不整形で若干の凹凸が認められ、中央付近に土坑が確認された。遺物は床面から No. 7～9 が、カマドから No. 6、10、11 が出土した。出土した遺物から帰属時期は 9 世紀中頃から後半頃であると考えられる。

4号竪穴建物

調査区中央付近にて検出された。東側が調査区外になる為詳細は不明であるが、規模は南北5.72m、東西2.66m以上で、確認面から床面までの深さは約56cmである。2号井戸、7号土坑と重複し、2号井戸より古く、7号土坑より新しい。床面は南側に向け若干傾斜し南北での高低差は約10cmである。全体的に硬くしまり、中央付近はローム小ブロックが多く非常に硬くしまっている。カマドは確認されなかった。また、その他の施設も確認されなかった。建物の掘り方は、中央付近にて下層の粘土を採取したと推測される土坑状の穴を数基検出した。北側の掘り方は比較的平坦で浅い。遺物は、覆土からNo.13、14、16、18が、床面からNo.12、15、19が、掘り方からNo.17が出土した。出土した遺物から帰属時期は9世紀中頃から後半頃であると考えられる。

5号竪穴建物

調査区南側中央部にて検出された。規模は南北2.35m、東西3.13mで、確認面から床面までの深さは約40cmである。2号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。底面には灰の堆積が認められた。床面は全体的に平坦でカマド前面および建物中央付近が硬くしまっている。南東側に貯蔵穴が検出された。柱穴は検出されなかった。カマドは東壁に設置され、壁から外側に約43cm造り出して構築されている。両袖部分は地山褐色粘土が使用され、両袖とも芯材に円礫が使用されている。燃烧部下幅は約28cmで、壁は被熱の為焼土化している。建物の掘り方は浅く不整形で若干の凹凸が認められる。床面では認識できなかったが、貯蔵穴が確認された。遺物はカマドからNo.26が、貯蔵穴確認面からNo.23、24が出土した。出土した遺物および重複関係から帰属時期は9世紀後半頃であると考えられる。

6号竪穴建物

調査区西側にて検出された。規模は南北3.61m、東西2.10m以上で、確認面から床面までの深さは約45cmである。5号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が古い。床面は全体的に平坦でカマド前面から建物中央付近が硬くしまっている。柱穴は検出されなかった。カマドは東壁やや南よりに設置され、煙道部が約10cm程壁から外側になるが、燃烧部は住居内に構築されている。袖部分は残存せず、床面にて僅かに地山褐色粘土が認められる程度である。燃烧部下幅は約50cmで、若干の灰の堆積が認められたが、焼土化はしていない。建物の掘り方は、中央部と北東部分が土坑状となり、北東部の土坑は深く掘られ下層の黄色粘土を採取したものと推測される。遺物は覆土からNo.29、30が、床面からNo.27、28が、掘り方からNo.31、33、34が出土した。出土した遺物から帰属時期は9世紀後半頃であると考えられる。

井戸

1号井戸

調査区東側にて検出された。2号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は、南側半分が調査区外になる為、詳細は不明だが、径3.3mの円形と推測される。底面は調査区外になる為不明であるが、確認面から170cm下にて湧水が認められた。断面形は逆三角ラスコ形で開口部は広く開き、確認面から約130cm程下から筒状に掘り下げられている。覆土上層にはAs-Bのほぼ純層と考えられる層がレンズ状(PL7)に堆積している。中層には角閃石安山岩が1石崩落しており、As-Cと考えられる白色軽石が含まれる。下層はやや砂質の黒色土である。地山の褐色ブロックや混入物がない為、自然埋没と推測される。遺物は覆土中から土師器片が数片出土したのみである。

2号井戸

調査区中央付近にて検出された。4号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は、径85cmの円形で、底面の深さは確認面から213cmである。約160cm下にて湧水が認められた。断面形は筒状で直に掘り下げられている。底面はフラットで非常に硬い地山黄灰土で止まっている。覆土には全体的にAs-B粒が多く含まれる。中層から下層はAs-B粒の他、地山黄褐色粘土小ブロックが多く含まれる為、人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物は覆土中から土師器片が数片出土したのみである。

溝

1号溝

調査区東側にて検出された。南北方向の畝跡と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。規模は、長さ9.7m以上、幅2m以上で、主軸はN-4°-Eである。確認面から底部までの深さは北側で50cmで、南側に緩やかに傾斜しており、南北での高低差は16cmである。断面は皿状で、底面は凹凸がなく比較的平坦である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石がやや多く含まれる。底面には流水を受けた痕跡はない。遺物は覆土中からNo.35が出土した。

2号溝

調査区北側にて検出された。規模は、長さ4.25m以上、幅1.60mで、主軸はN-80°-Wである。確認面から底部までの深さは18cmある。西側に緩やかに傾斜し、東側は浅くなり確認できなくなる。東西での高低差は約20cmである。断面は皿状で、底面は凹凸がなく平坦である。覆土にAs-B粒が含まれる。底面には流水を受けた痕跡はない。遺物は覆土中から土師器の小破片が出土したのみである。

土坑

1号土坑

調査区東側にて検出された。1号井戸と南北方向の畝跡と重複する。1号井戸より古く、畝跡との関係は覆土が酷似する為、新旧関係は不明であるが、同時存在の可能性が推測される。規模は、南北4.23m以上、東西1.73mで、確認面から底部までの深さは24cmである。平面は長楕円形で、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれ、南北方向の畝跡の覆土と酷似する。遺物は覆土中から極少量の土師器片が出土した。

2号土坑

調査区東側にて検出された。東西方向と南北方向の畝跡と重複する。東西方向の畝より古く、南北方向の畝跡との関係は覆土が酷似する為、新旧関係は不明であるが、2号土坑同様に同時存在の可能性が推測される。規模は、南北5.00m以上、東西1.63mで、確認面から底部までの深さは48cmである。平面は長楕円形で、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれ、南北方向の畝跡の覆土と酷似する。遺物は覆土中からNo.36が出土した。帰属時期は出土した遺物から9世紀代であると考えられる。

3号土坑

調査区東側にて検出された。南北方向の畝跡と重複する。畝跡との関係は覆土が酷似する為、新旧関係は不明であるが、同時存在の可能性が推測される。規模は、南北2.54m、東西4.06mで、確認面から底部までの深さは23cmである。平面は不整長方形で、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれ、南北方向の畝跡の覆土と酷似する。北東隅に焼土が認められ、底面に薄い灰層が認められた。遺物は覆土中から極少量の土師器片が出土した。

4号土坑

調査区南西側にて検出された。東西方向の畝跡と、1号竪穴建物と重複し、本遺構が一番古い。規模は、南北2.34m、東西2.97m以上で、確認面から底部までの深さは10cmである。平面は不整形で、断面は箱状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は覆土中から極少量の土師器片が出土した。

5号土坑

調査区西側にて検出された。6号竪穴建物と重複し、本遺構の方が新しい。規模は、南北94cm、東西70cm以上で、確認面から底部までの深さは11cmである。平面は円形で、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は検出されなかった。

6号土坑

調査区南側にて検出された。規模は、南北1.32m、東西82cmで、確認面から底部までの深さは38cmである。平面は隅丸長方形で、断面は箱状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は覆土中からNo.37が出土した。帰属時期は出土した遺物から9世紀代であると考えられる。

7号土坑

調査区中央付近にて検出された。4号竪穴建物と重複し、本遺構の方が古い。規模は、南北2.42m以上、東西25cm以上で、確認面から底部までの深さは21cmである。平面は長楕円形と推測され、断面はU字状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は検出されなかった。

8号土坑

調査区北側にて検出された。規模は、南北68cm、東西73cm以上で、確認面から底部までの深さは17cmである。平面形は長楕円形と推測され、断面は箱状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は検出されなかった。

9号土坑

調査区北側にて検出された。規模は、南北73cm、東西34cm以上で、確認面から底部までの深さは7cmである。平面は楕円形と推測され、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は検出されなかった。

10号土坑

調査区北側にて検出された。規模は、南北74cm、東西63cmで、確認面から底部までの深さは6cmである。平面は楕円形で、断面は皿状である。覆土にはAs-Bは含まれず、Hr-FPおよびAs-Cと考えられる白色軽石とHr-FAが含まれる。遺物は検出されなかった。

11号土坑

調査区北側にて検出された。規模は、南北83cm、東西2.37以上で、確認面から底部までの深さは45cmである。平面は長方形で、断面は箱状である。覆土には全体にAs-Bが多く含まれる。遺物は須恵器の小破片が覆土中から出土した。

12号土坑

調査区南側にて検出された。規模は、南北 1.63m 以上、東西 2.18 で、確認面から底部までの深さは 36cm である。平面は方形だが、西側が張出状に膨らむ、断面は箱状である。底面は平坦で硬化面等は無く、焼土および炭化物等は確認できない。覆土には全体に As-B が多く含まれる。遺物は土師器小破片が極少量出土した。

ピット

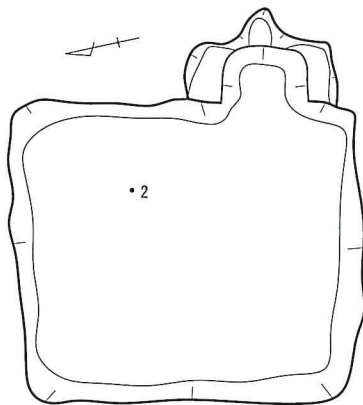
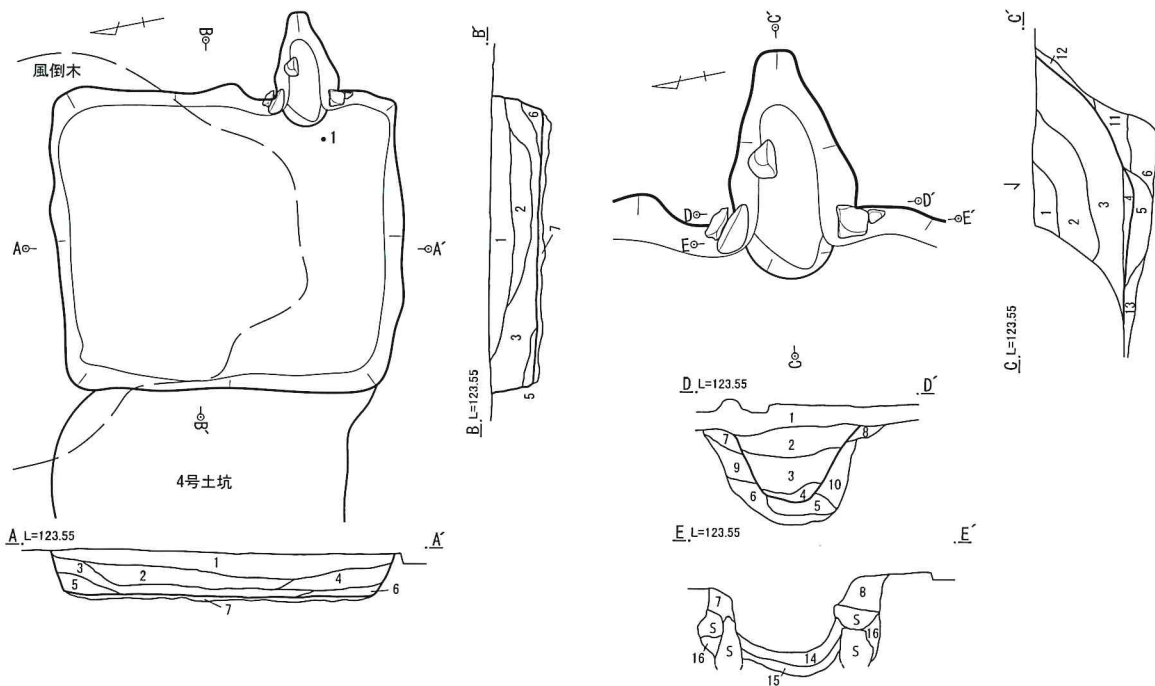
調査区南西付近から北側にて計 10 基のピットが散在した状態で検出された。3号ピットから9号ピットまでは調査区南側でまとまって検出されたが、規則性および共通性はなく、単体での存在と推測される。全てのピットの覆土には Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石と Hr-FA が含まれ、As-B は含まれない。底部に礫等は確認されなかった。

第1表 土坑・ピット計測表(単位cm) +は以上 重複:新>古

遺構名	平面形状	断面形状	径	長軸	短軸	深さ	重複	覆土	備考
1号土坑	長楕円形	皿状	-	423+	173	24	<1号井戸	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石と Hr-FA の混土	
2号土坑	長楕円形	皿状	-	500+	163	48		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石と Hr-FA の混土	
3号土坑	不整長方形	皿状	-	406	254	23		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石と Hr-FA の混土	焼土あり
4号土坑	不整形	箱状	-	297+	234	10	<1号住居	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
5号土坑	円形	皿状	-	94	74+	11	>6号住居	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
6号土坑	隅丸長方形	箱状	-	132	82	38		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
7号土坑	長楕円形	U字状	-	242+	25+	21	<4号住居	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
8号土坑	長楕円形	箱状	-	73+	68	17		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
9号土坑	楕円形	皿状	-	73	34+	7		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
10号土坑	楕円形	皿状	-	74	63	6		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
11号土坑	長方形	箱状	-	237+	83	45		As-B 多く Hr-FP と As-C と考えられる白色軽石の混土	
12号土坑	方形	箱状	-	218	163+	36		As-B 多く Hr-FP と As-C と考えられる白色軽石の混土	張出あり
1号ピット	不整形	U字状	-	36	33	29		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
2号ピット	不整形	U字状	-	44	32	22		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
3号ピット	円形	U字状	32	-	-	28		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
4号ピット	楕円形	U字状	-	36	26	25		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
5号ピット	楕円形	U字状	-	48	39	32		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
6号ピット	円形	U字状	25	-	-	-		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
7号ピット	不整形	段状	-	56	53	24	<8号ピット	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
8号ピット	楕円か	U字状	-	36	15	8	<9号ピット	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
9号ピット	不整形	U字状	-	50	40	19	>8号ピット	Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	
10号ピット	円形	U字状	51	-	-	18		Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土	

畝跡

北側を除きほぼ全面にて検出された。覆土および方向性から3時期の畝跡が考えられる。北西から南東方向を主軸とする畝跡が一番古く、覆土は Hr-FA を主体とする黄褐色土である。畝溝間は狭い箇所では 90~110cm と比較的幅が広く、調査区が L 字に屈曲する部分に多く検出され、東側にも数条確認できた。畝溝の幅は約 10~15cm で、深さは浅く約 2~3cm である。全調査区の壁には Hr-FA 主体の層は認められない為、Hr-FA 主体の覆土を持つ畝跡の広がりは確認できず、今回検出された箇所での限定的な分布である。南北方向に主軸をもつ畝跡は次に古く、覆土は Hr-FA と Hr-FP および As-C と考えられる白色軽石の混土で、基本堆積 V 層に相当する。調査区南側全面から検出され、畝溝間は狭く密である。畝溝の幅は 30~50cm で、深さは深いもので約 15cm である。2、5号竪穴建物、1号溝、1号井戸と1~3号土坑と重複し、建物、溝、井戸よりは古いが、土坑とは覆土が酷似する為、新旧関係は不明である。東西方向に主軸を持つ畝跡が一番新しく、調査区全体に散存している。覆土には、As-A と考えられる白色軽石と As-B が多く含まれる。隣接して調査された中泉十王堂遺跡2で検出された畝跡と覆土は酷似しており、関連が考えらる。遺物は南北方向の畝溝から土師器片が極少量出土した。

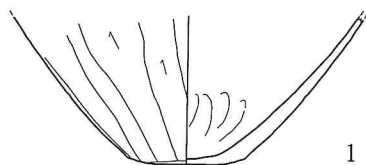


1号竪穴建物カマド C・D・E セクション

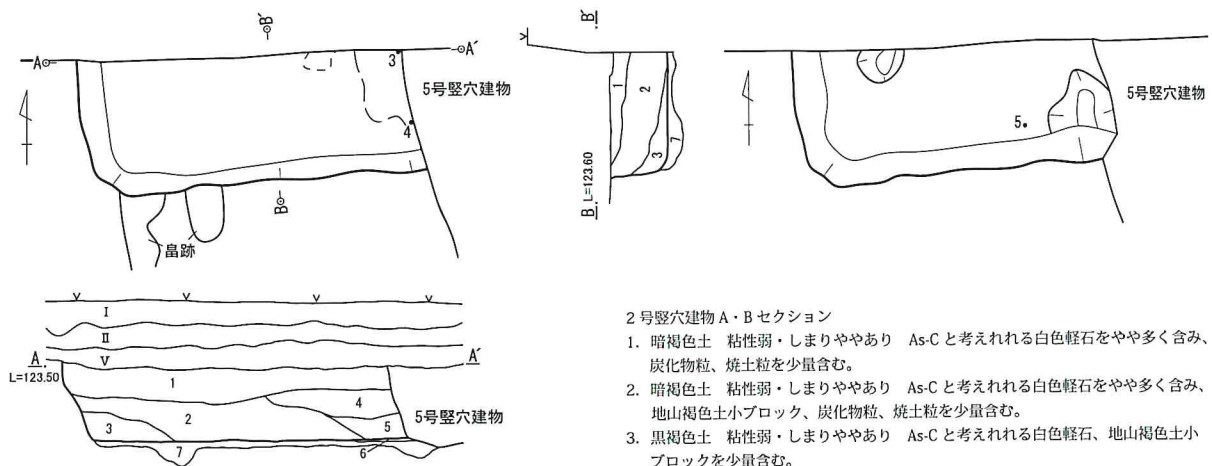
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 住居 A・B セクション 1 層と同じ
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土小ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒を多く含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒をやや多く含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石を少量含み、焼土粒を和すかに含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 7 層と同じ
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 9 層と同じ
11. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒を含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
12. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
13. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 褐色粘土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。
14. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒をやや多く含み、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
15. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
16. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

1号竪穴建物 A・B セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含む。
7. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 褐色粘土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。

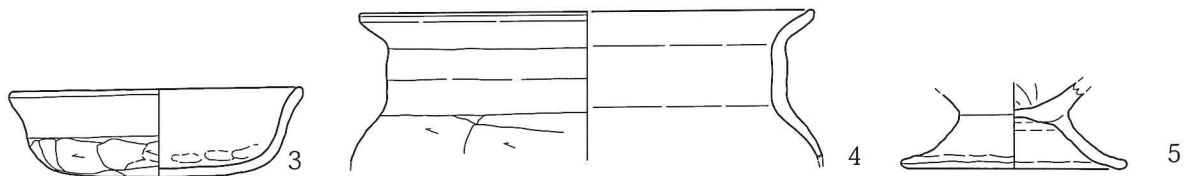


第5図 1号竪穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)

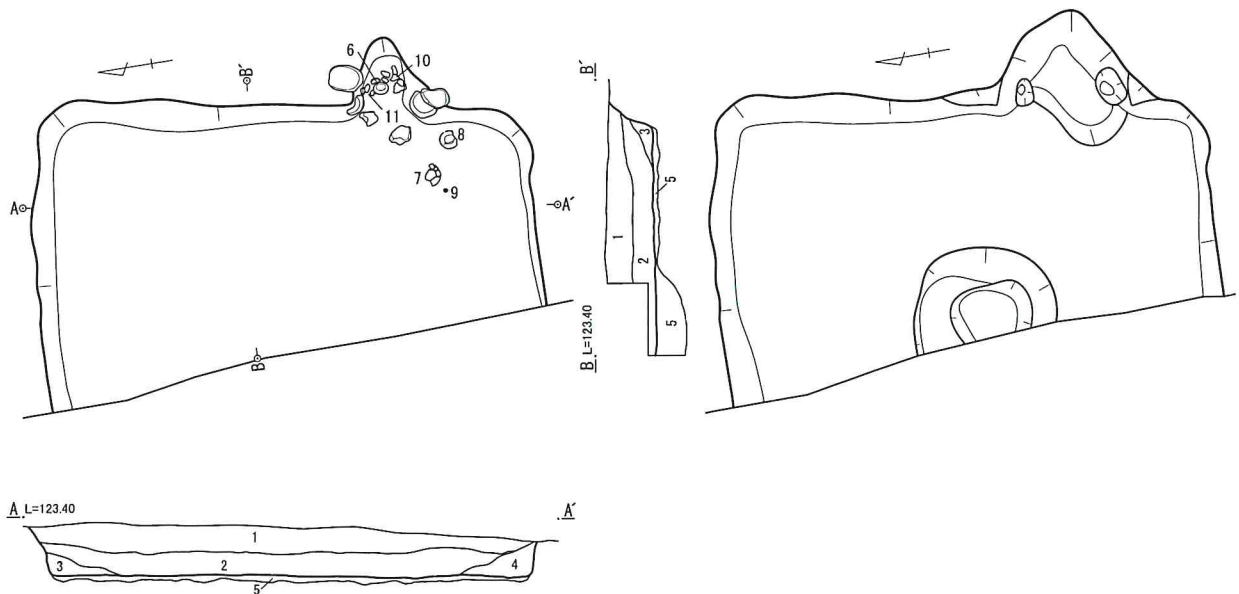


2号竖穴建物 A・B セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
5. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、焼土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 灰、炭化物粒を多く含み、焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色粘土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。



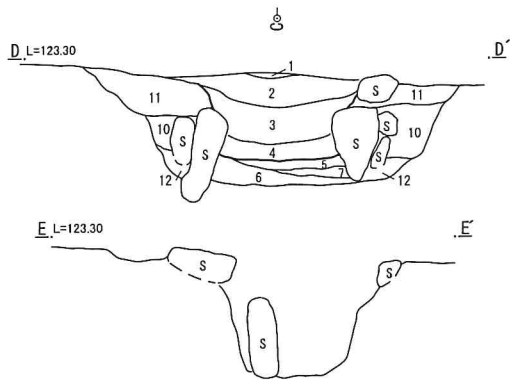
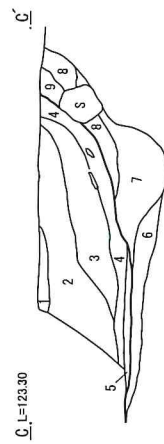
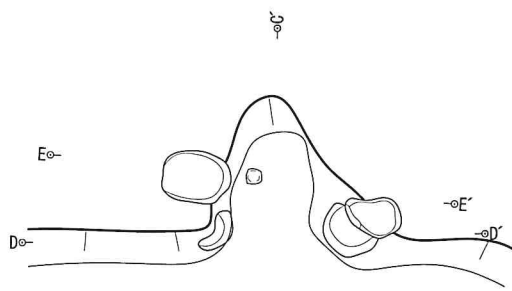
第6図 2号竖穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)



3号竖穴建物 A・B セクション

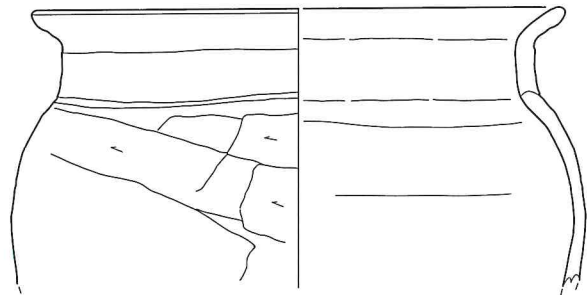
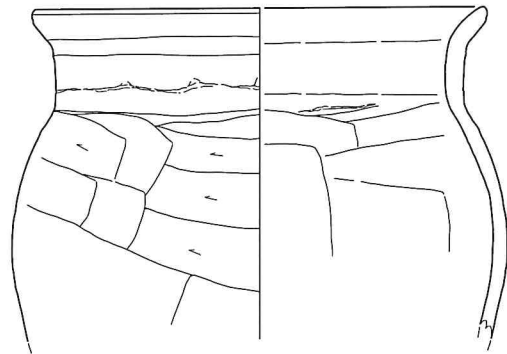
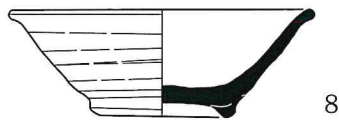
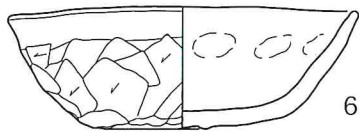
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロックをわずかに含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロック、炭化物粒をわずかに含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色粘土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。(掘り方)

第7図 3号竖穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図 (1/60)

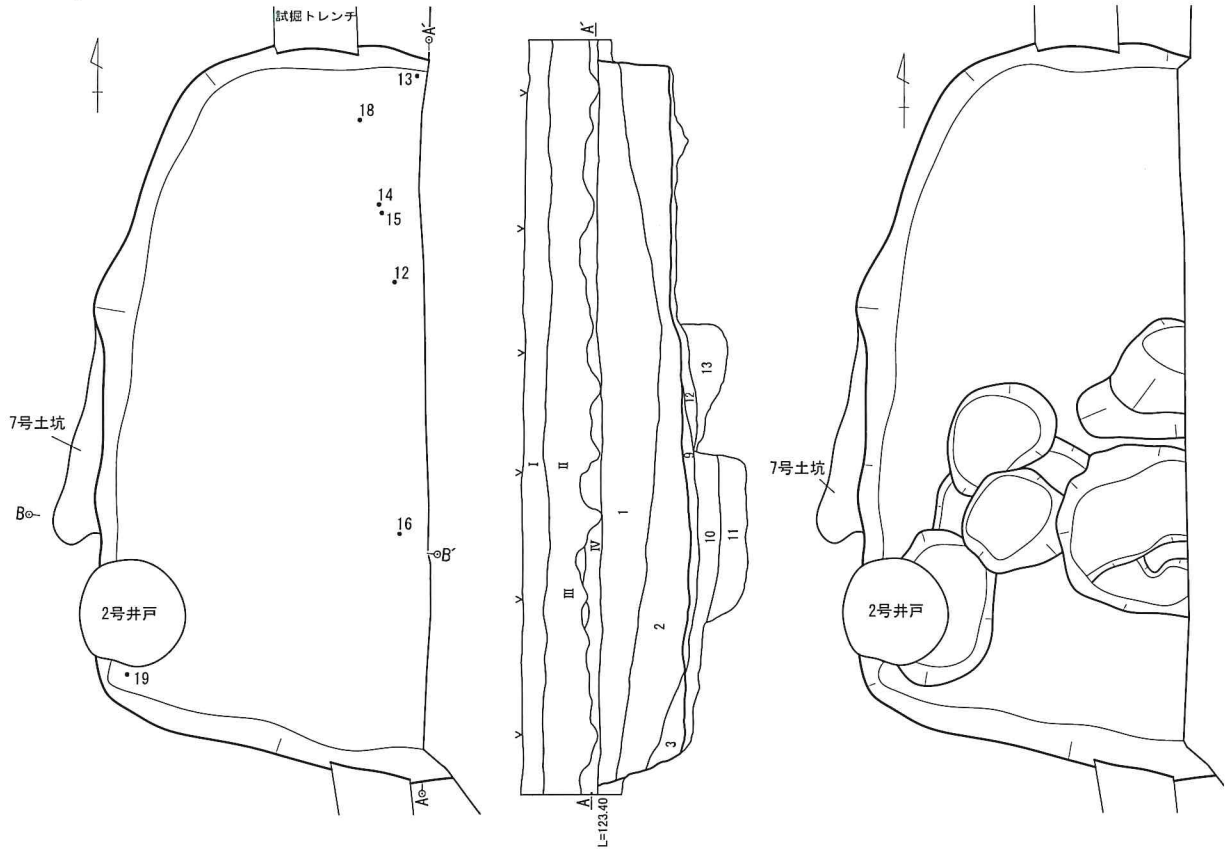


3号竪穴建物カマドC・Dセクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 住居A・Bセクション1層と同じ
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒、焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含む。
5. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒をやや多く含む、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 焼土小ブロック、焼土粒、炭化物粒をやや多く含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、炭化物粒を少量含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
11. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 炭化物粒、焼土粒を少量含む。
12. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含む、炭化物粒を少量含む。

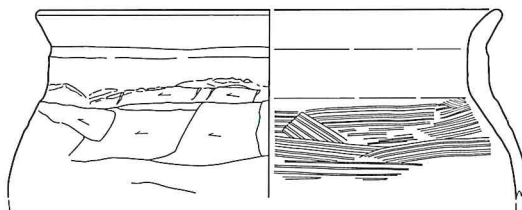
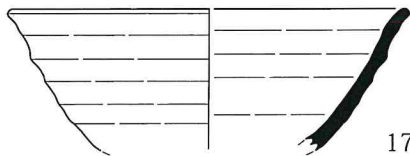
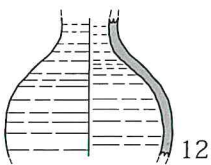
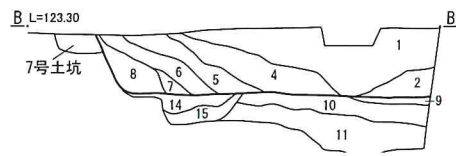


第8図 3号竪穴建物 カマド平面図・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)

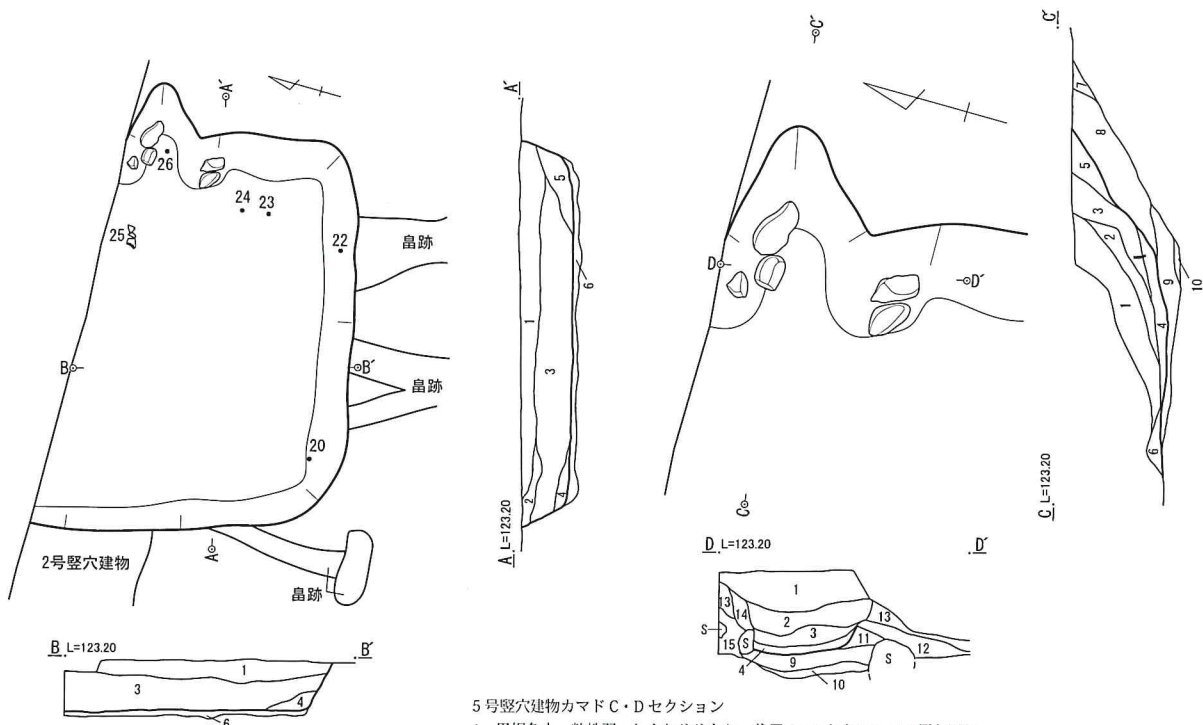


4号竪穴建物 A・Bセクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒をやや多く含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、炭化物粒、地山褐色土小ブロックをわずか含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
8. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
9. 黄色土 粘性あり・しまりあり 地山黄色粘土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
10. 黒色土 粘性ややあり・しまりあり 地山黄色粘土小ブロック、灰、炭化物粒をやや多く含む。
11. 褐色土 粘性あり・しまりあり 地山褐色粘土小ブロックを多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。
12. 黄色土 粘性あり・しまりあり 地山黄色粘土小ブロック、焼土粒を多く含む。
13. 褐色土 粘性あり・しまりあり 地山褐色粘土小ブロックを多く含み、炭化物粒、焼土粒を含む。
14. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、炭化物粒、地山褐色土小ブロックをわずか含む。
15. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山黄色粘土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。



第9図 4号竪穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

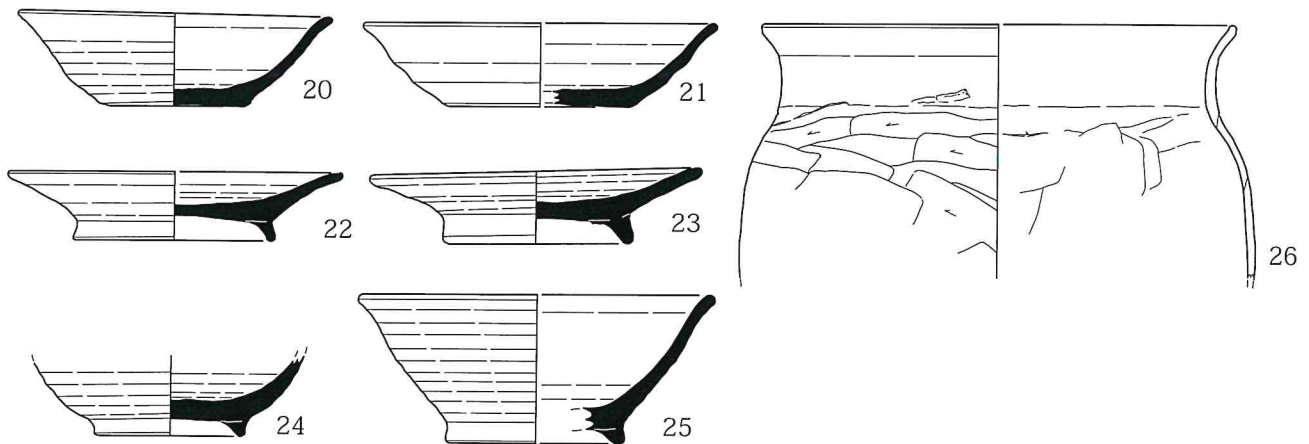
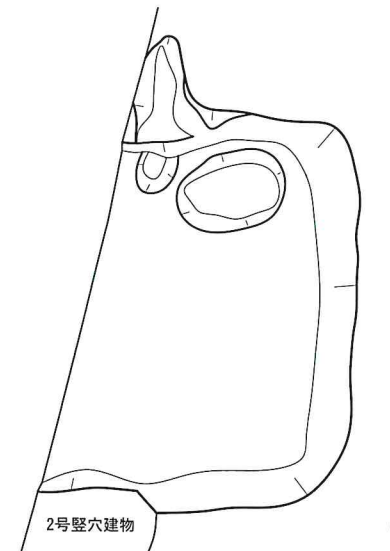


5号竪穴建物カマド C・Dセクション

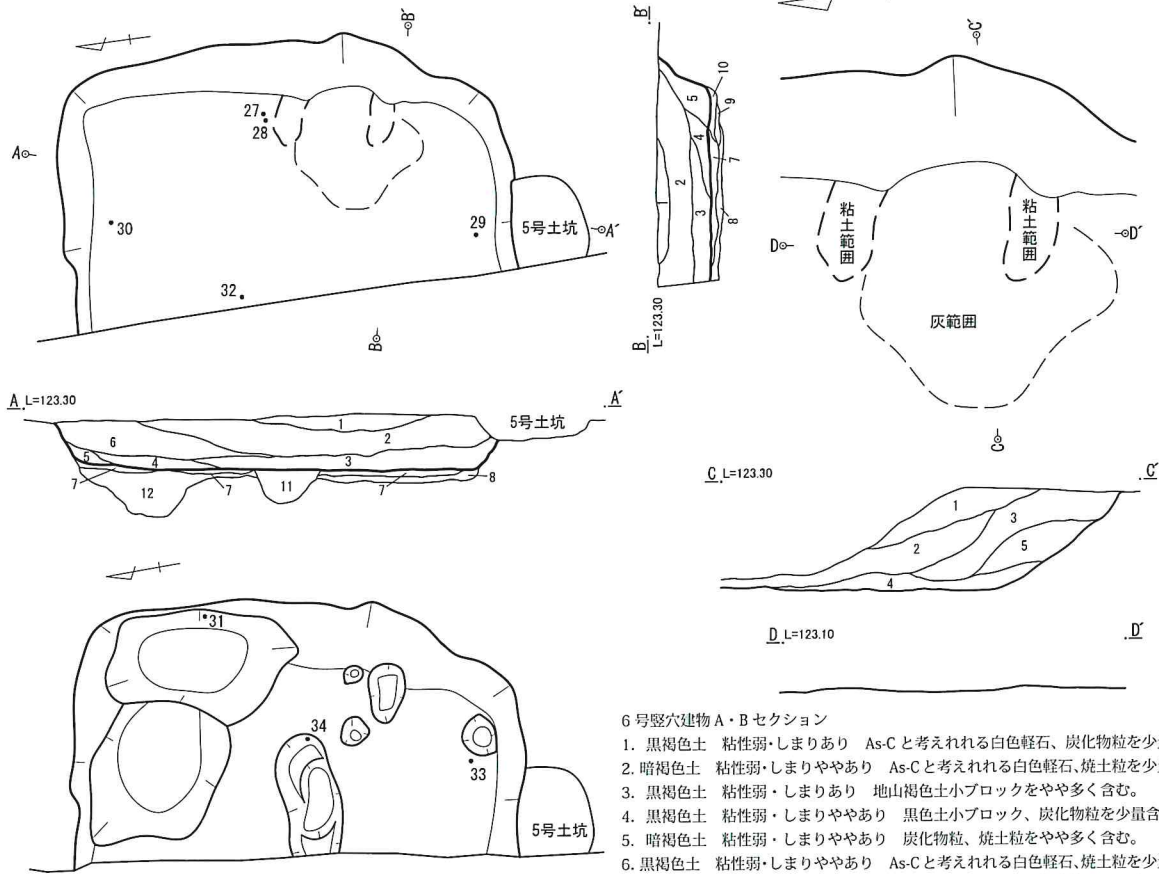
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 住居 A・B セクション 1 層と同じ
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。
3. 暗赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒をやや多く含む。
4. 赤褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック、焼土粒を多く含み、灰を含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
6. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土ブロック、炭化物粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック、焼土粒、灰をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、焼土小ブロック、焼土粒を少量含む。
11. 褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
12. 黄褐色土 粘性あり・しまりあり 地山黄粘土小ブロックを多く含み、焼土粒を少量含む。
13. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
14. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック、焼土粒をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
15. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山黄粘土小ブロック、焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

5号竪穴建物 A・B セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒をやや多く含み、As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロックをわずかに含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒をわずかに含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロック、炭化物粒をわずかに含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。(掘り方)



第 10 図 5号竪穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図 (1/60) カマド平面図・断面図 (1/30) 出土遺物図 (1/3)

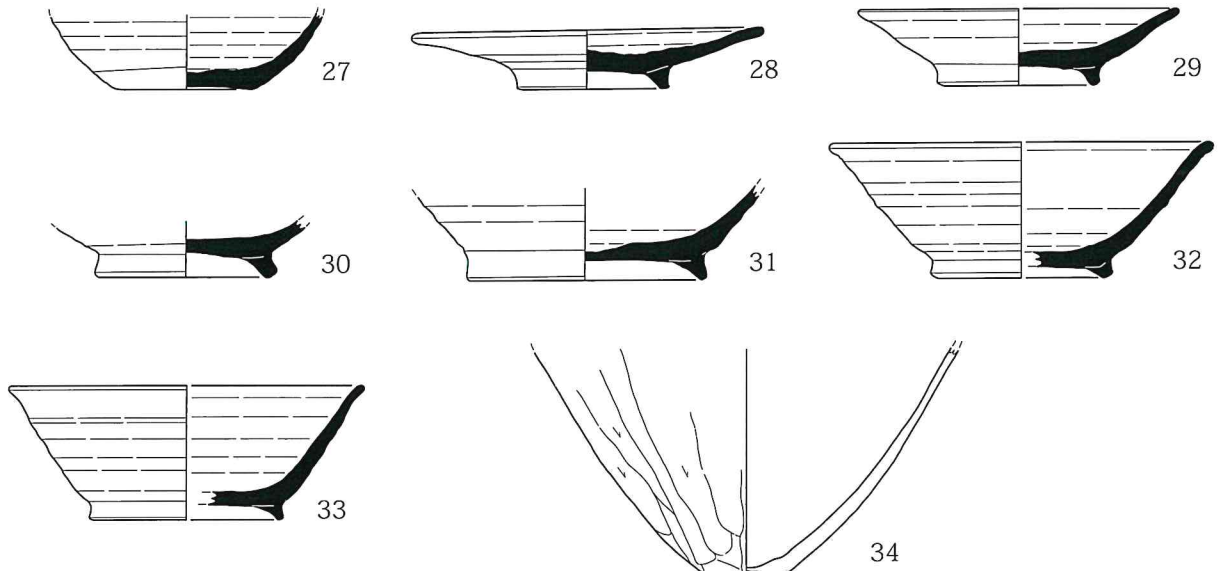


6号竪穴建物カマドCセクション

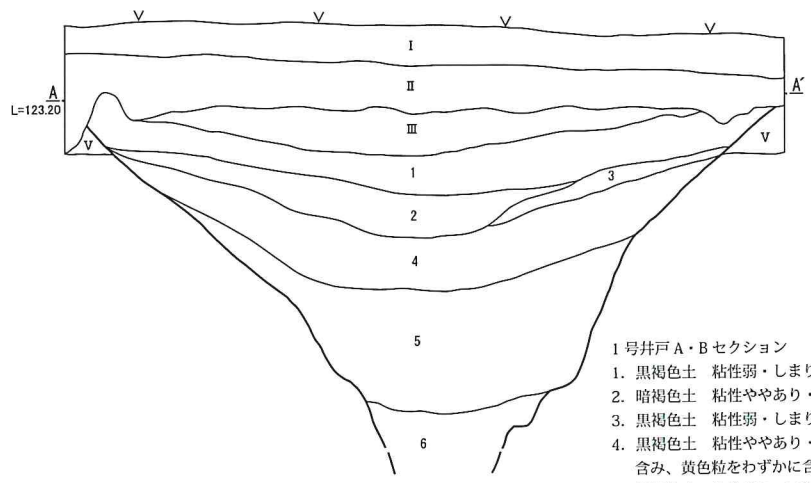
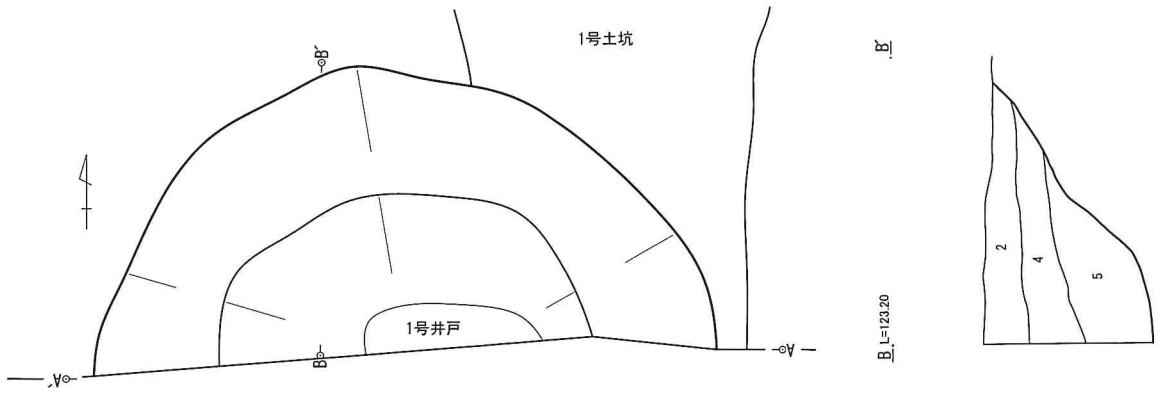
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 住居A・Bセクション2層と同じ。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黒色土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
4. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 灰、焼土小ブロック、焼土粒を多く含む、炭化物粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。

6号竪穴建物A・Bセクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-Cと考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 黒色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 炭化物粒、焼土粒をやや多く含む。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-Cと考えられる白色軽石、焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロック、焼土粒を少量含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土小ブロック、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
9. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 焼土粒、灰、炭化物粒をやや多く含む。
10. 暗赤色土 粘性あり・しまりあり 焼土小ブロックを多く含む、焼土粒、灰、炭化物粒を含む。
11. 暗褐色土 粘性あり・しまりあり 地山褐色粘土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒、焼土粒を含む。
12. 暗褐色土 粘性あり・しまりあり 地山黄色粘土小ブロックを多く含む、焼土粒、炭化物粒を少量含む。

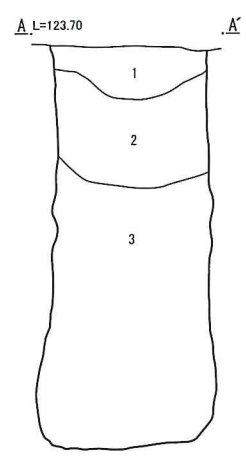
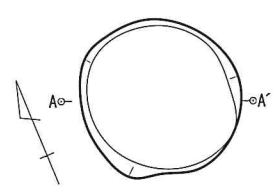


第11図 6号竪穴建物 平面図・断面図 掘り方平面図(1/60) カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/30)



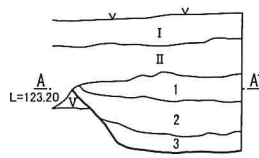
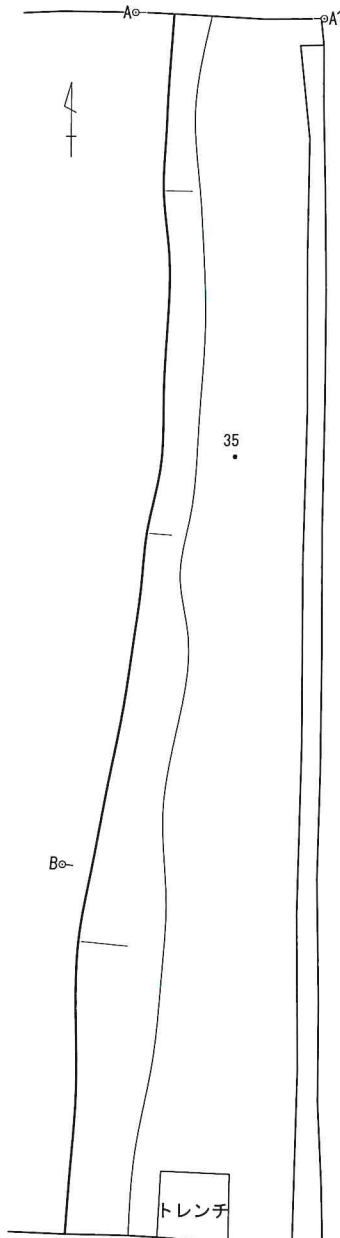
- 1号井戸 A・B セクション
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
 2. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりあり As-C と考えられる白色軽石をわずかに含む。
 3. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
 4. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり As-C と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む、黄色粒をわずかに含む。
 5. 黒褐色土 粘性あり・しまりあり As-C と考えられる白色軽石、黄色粒をわずかに含む。
 6. 黒褐色土 粘性あり・しまりあり As-C と考えられる白色軽石をわずかに含む。

第 12 図 1号井戸 平面図・断面図 (1/40)



- 1号井戸 A・B セクション
1. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B 粒を多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
 2. 褐色土 粘性ややあり・しまりややあり As-B 粒、地山褐色土小ブロックを多く含み、炭化物粒を少量含む。
 3. 暗褐色土 粘性あり・しまりややあり As-B 粒を多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。

第 13 図 2号井戸 平面図・断面図 (1/40)



1号溝 A セクション

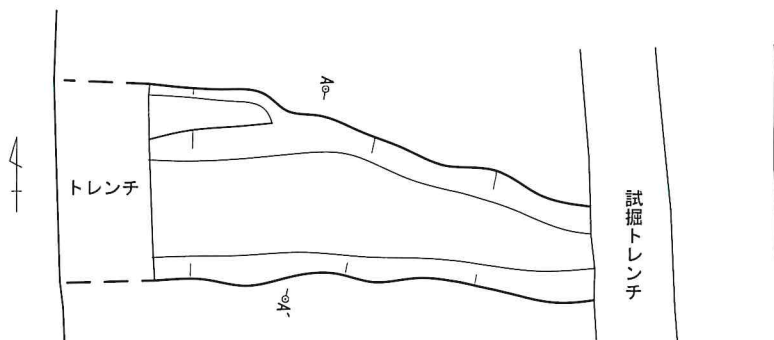
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石をやや多く含み、炭化物粒をわずかに含む。
3. 黒色土 粘性あり・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含み、地山褐色土小ブロックをわずかに含む。



1号溝 B セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり A セクション 2 層と同じ。
2. 黒色土 粘性あり・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石をやや多く含み、地山褐色土小ブロックおよび黒色土小ブロックをわずかに含む。
3. 黒色土 粘性あり・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含み、地山黒色土小ブロックをわずかに含む。

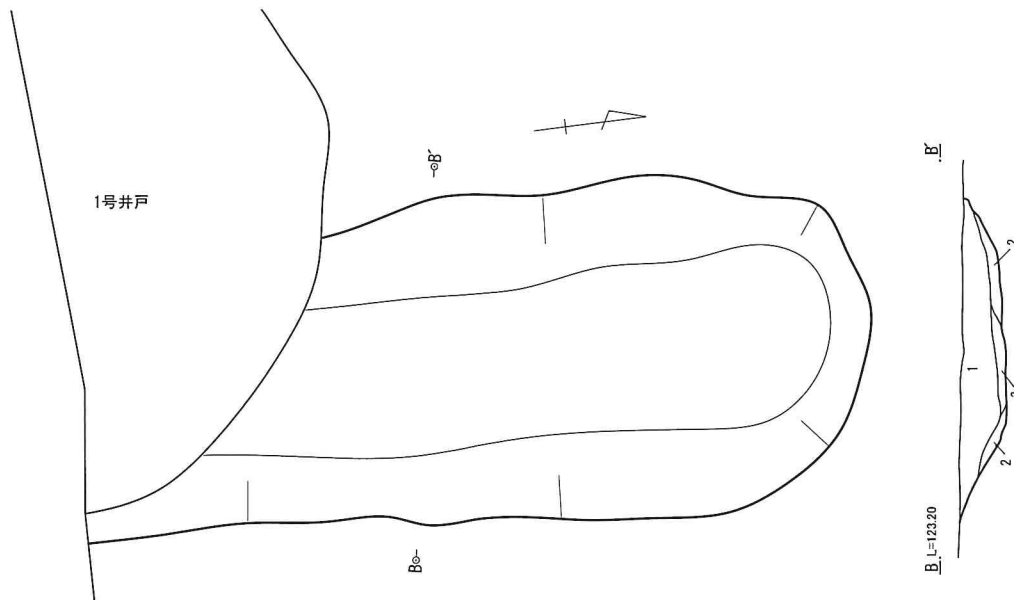
第 14 図 1 号溝 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)



2号溝 A セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒をやや多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒、As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B 粒を多く含む。

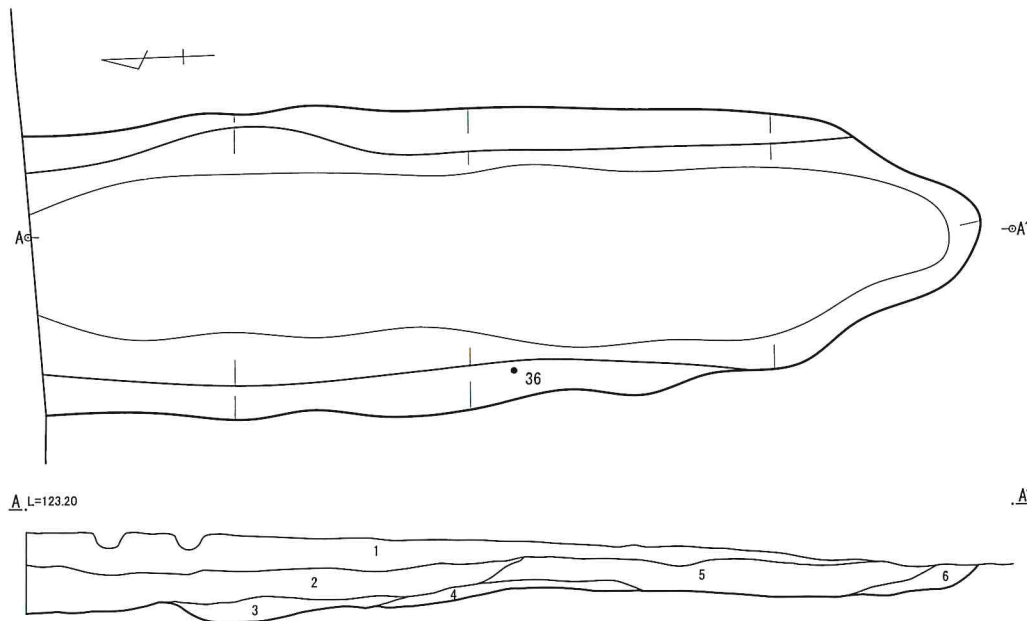
第 15 図 2 号溝 平面図・断面図 (1/60)



1号土坑 A セクション

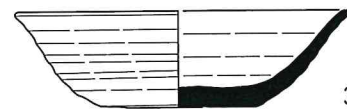
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA をやや多く含み、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA を少量含み、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
3. 黒色土 粘性あり・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、黒色土小ブロックをわずかに含む。

第 16 図 1号土坑 平面図・断面図 (1/40)



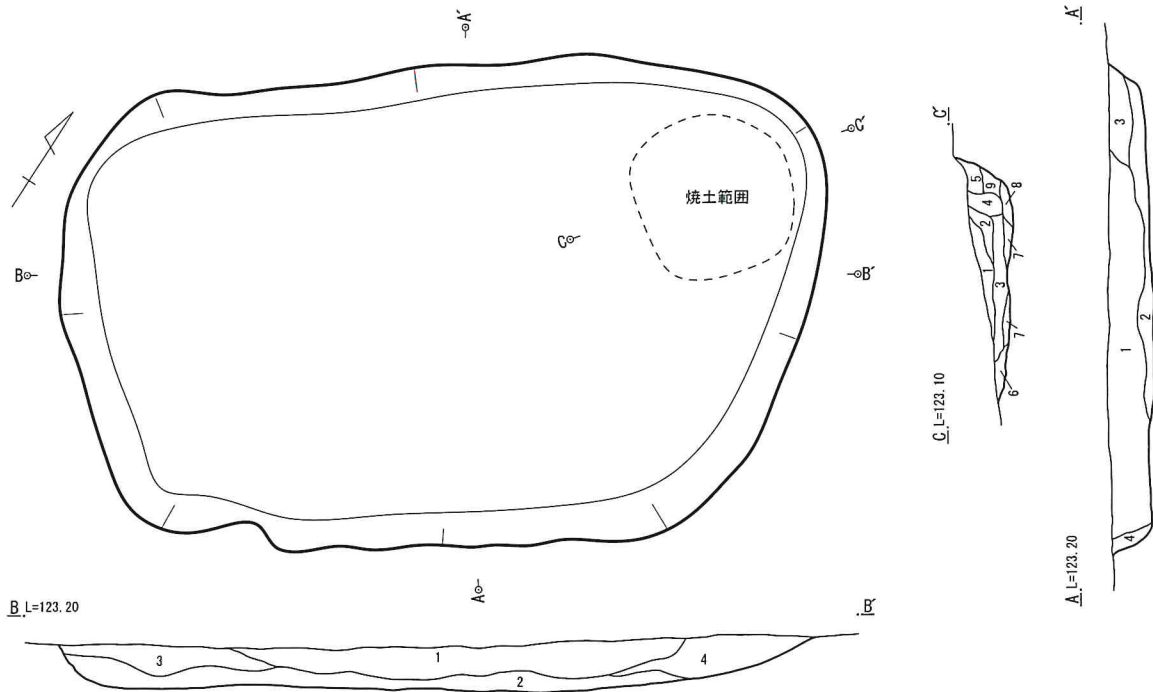
2号土坑 A セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA を多く含み、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、黒色土小ブロックをわずかに含む。
4. 黒色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、黒色土小ブロックをわずかに含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を多く含み、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含む。



36

第 17 図 2号土坑 平面図・断面図 (1/40) 出土遺物図 (1/3)



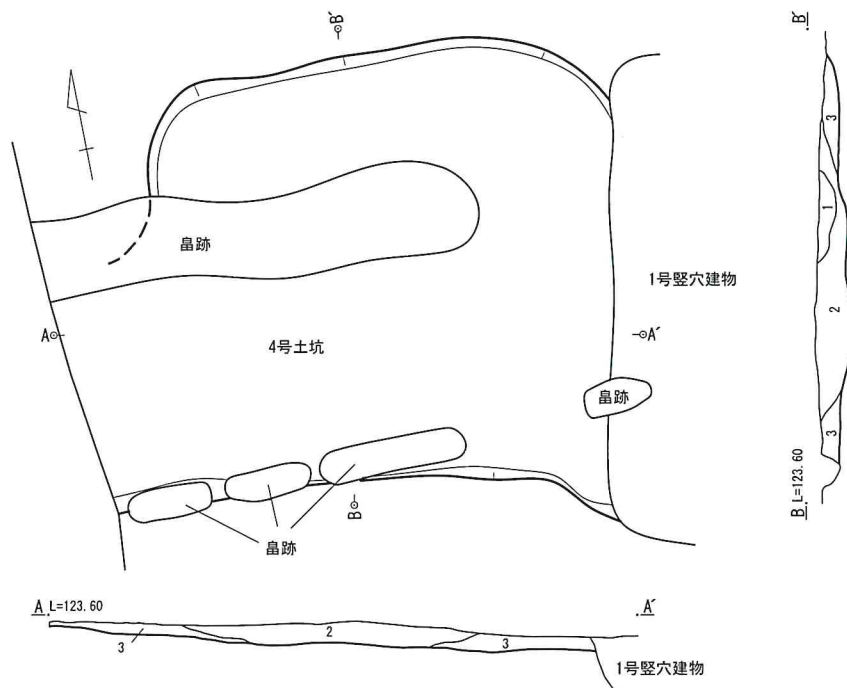
3号土坑 A・B セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA を多く含み、黒色土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) および Hr-FA を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、焼土粒をやや多く含む。

3号土坑 C セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロック、焼土粒をやや多く含む。
2. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロックを多く含み、地山褐色土小ブロック、炭化物粒を少量含む。
3. 暗オリーブ色土 粘性弱・しまり弱 灰、炭化物粒を多く含み、焼土粒を少量含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土粘土ブロックを多く含み、焼土粒を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒を少量含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
7. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 焼土小ブロックを少量含み、焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロック、炭化物粒、焼土粒を少量含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 灰、炭化物粒をやや多く含み、焼土粒をわずかに含む。

第 18 図 3号土坑 平面図・断面図 (1/40)

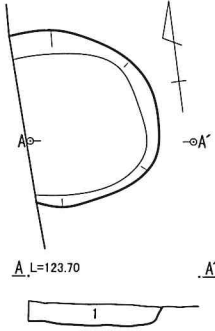


4号土坑 A・B セクション

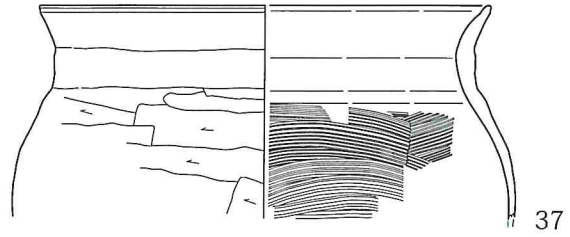
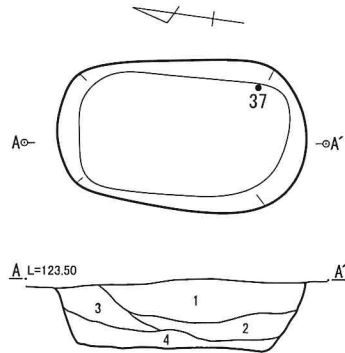
1. 灰オリーブ色土 粘性弱・しまり弱 As-B 粒を多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。(畝の耕作土)
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) をわずかに含む。

第 19 図 4号土坑 平面図・断面図 (1/40)

5号土坑



6号土坑



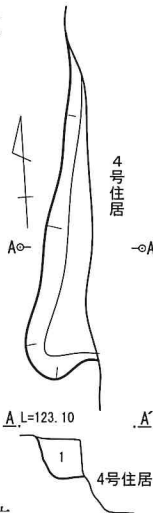
5号土坑 A セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含み、炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。

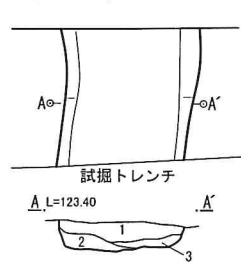
6号土坑 A セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
 3. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石をやや多く含み、炭化物粒をわずかに含む。
 4. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石、地山褐色土小ブロックを少量含む。

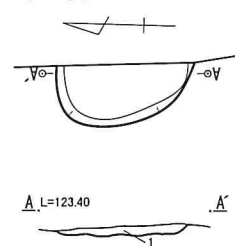
7号土坑



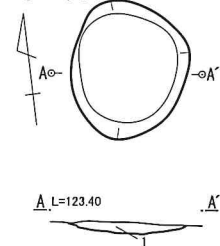
8号土坑



9号土坑



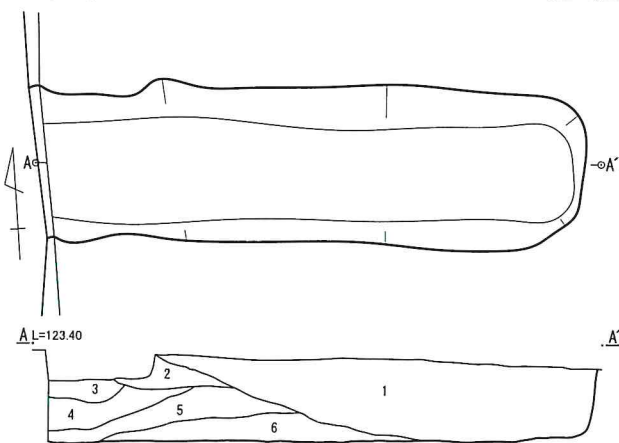
10号土坑



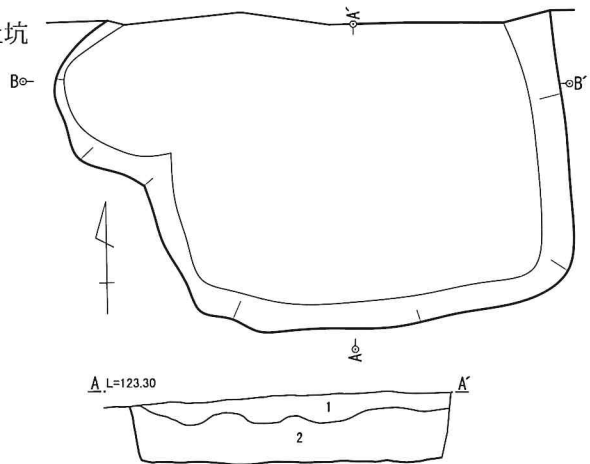
7～10号土坑 A セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒を少量含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石をわずかに含み、炭化物粒を少量含む。
 3. 黒褐色土 粘性弱・しまりあり As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含み、地山黒色土小ブロックをわずかに含む。

11号土坑



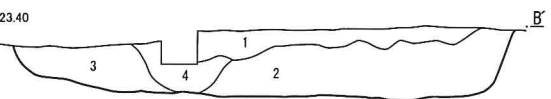
12号土坑



11号土坑 A セクション

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒を少量含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含む。
 3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石、炭化物粒を少量含む。
 4. 黒色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒、黒色土小ブロックを少量含む。
 5. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、炭化物粒を少量含む。
 6. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり As-B 粒、炭化物粒を少量含み、黒色土小ブロックをわずかに含む。

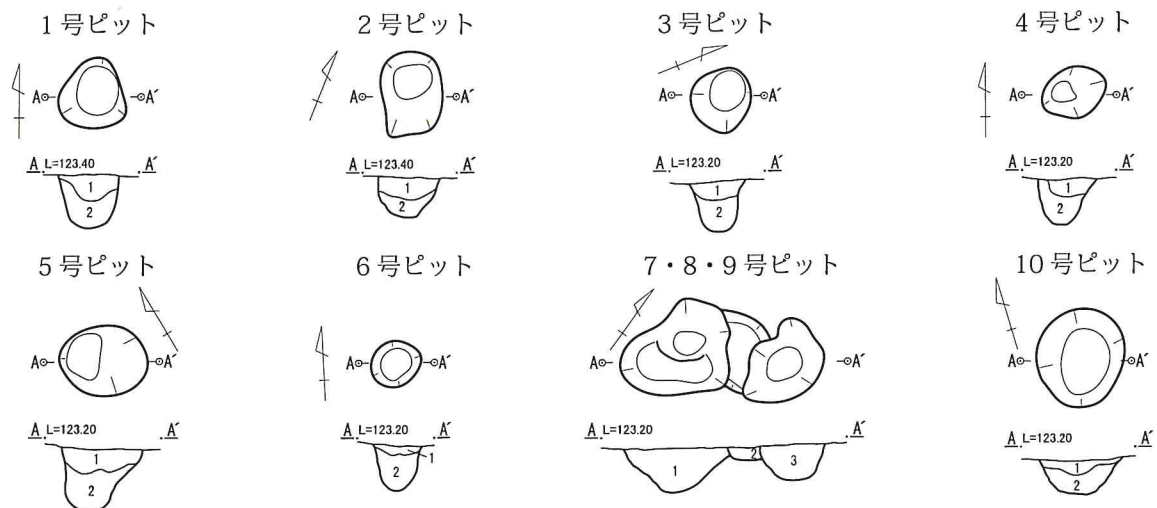
B.L=123.40



12号土坑 A セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石と 5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か)、炭化物粒を少量含む。
 2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒を多く含み、炭化物粒を少量含む。
 3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒をやや多く含む。
 4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B 粒をやや多く含み、炭化物粒、地山暗褐色土小ブロックを少量含む。

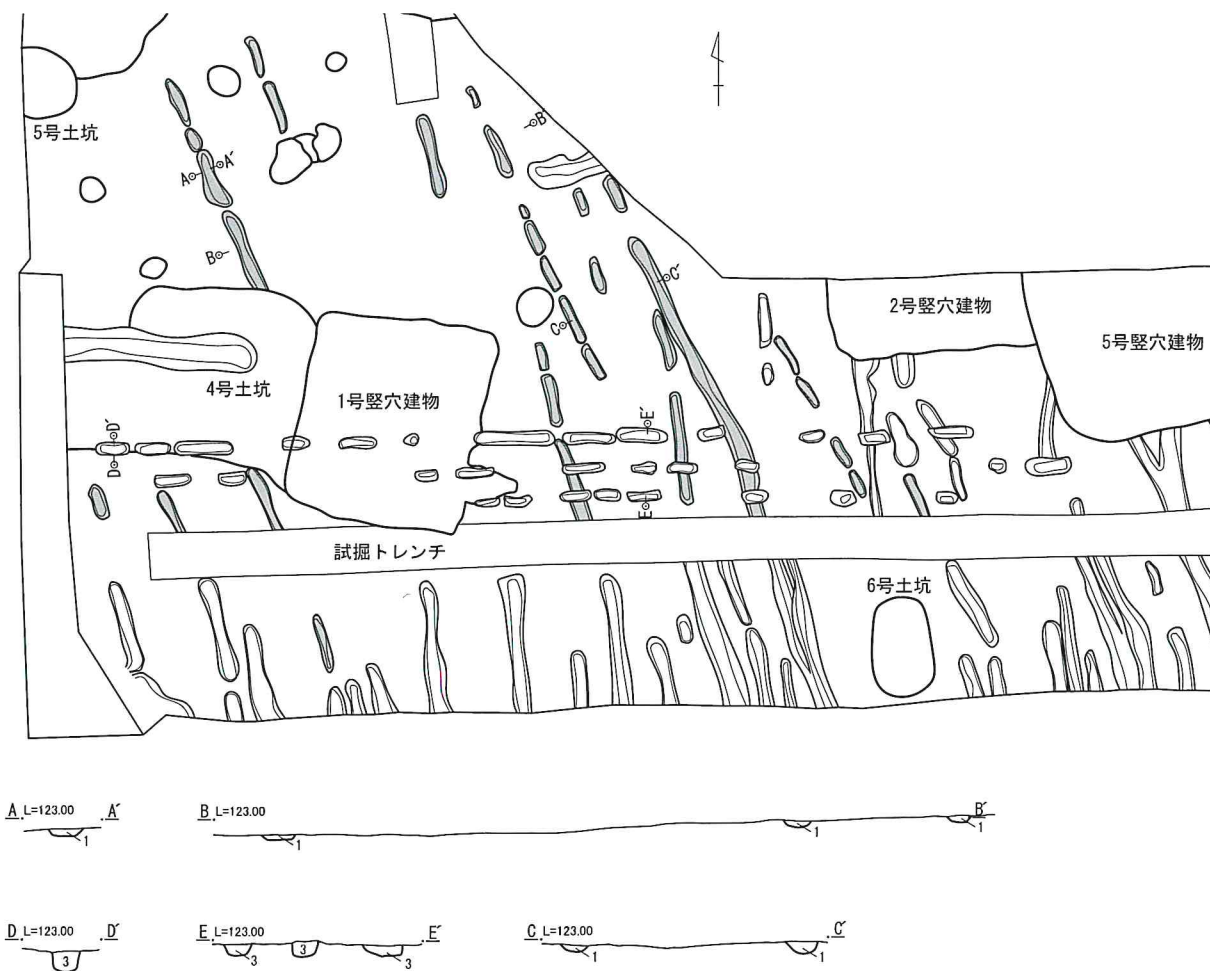
第 20 図 5～12号土坑 平面図・断面図 (1/40) 6号土坑出土遺物図 (1/3)



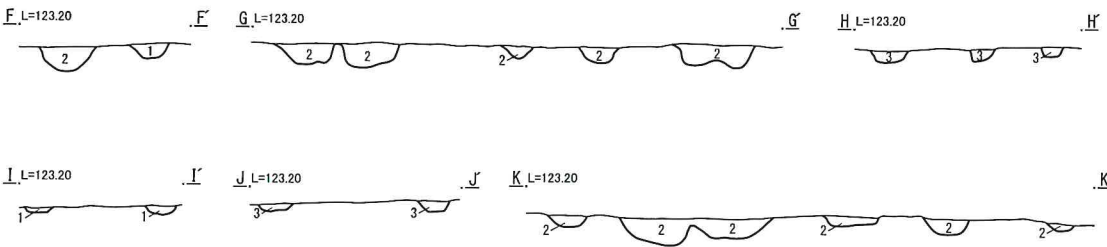
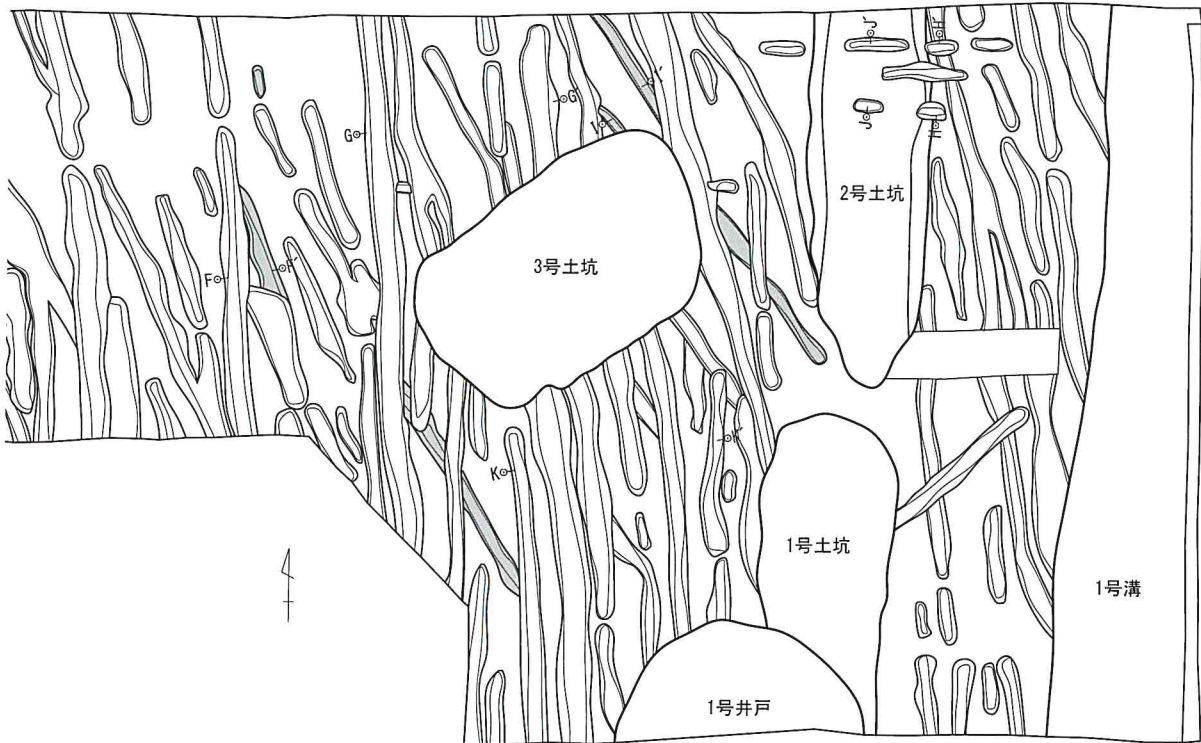
各ピット共通セクション

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C粒と考えられる白色軽石と5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) をやや多く含み、炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C粒と考えられる白色軽石と5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、炭化物粒をわずかに含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C粒と考えられる白色軽石と5～10mmの白色軽石 (Hr-FP か) を少量含み、炭化物粒、黒色土小ブロックをわずかに含む。

第21図 1～10号ピット 平面図・断面図 (1/40)



第22図 調査区西側 畠 平面図 トーン部は覆土が Hr-FA 主体の畠 (1/100)・断面図 (1/40)



島共通セクション

1. 褐色土 粘性ややあり・しまりややあり Hr-FA 小ブロック、黄色粒をやや多く含み、As-C 粒と考えられる白色軽石を少量含む。(北西から南東方向の島の耕作土)
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-C 粒と考えられる白色軽石と 5~10mm の白色軽石 (Hr-FP か) をやや多く含み、黄色粒 (Hr-FA 粒か) 炭化物粒を少量含む。(南北方向の島の耕作土)
3. 灰オリーブ色土 粘性弱・しまり弱 As-B 粒を多く含み、白色軽石 (As-A 粒か) を少量含む。(東西方向の島の耕作土)

第 23 図 調査区東側 島 平面図 トーン部は覆土が Hr-FA 主体の島 (1/100)・断面図 (1/40)
第 2 表 出土遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土構構 出土層位	口径・底径 器高・<残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	土師器 甕	1号竪穴建物 床面	—・8.6 —・<5.9>	外面：体部縦方向のヘラ削り 底部ヘラ削り 内面：ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) にぶい橙色
2	石器 スクレーパー	1号竪穴建物 掘り方	最長：6.9 最短：3.4 最厚：0.95 重(g)：33	石器表面は剥離面の観察が困難なほど著しく風化している。完形。横長剥片素材。加工は、打面側と末端側に施される。打面側の加工は背面側からの打撃で、末端側の加工は主要剥離面側から加えられている。	石材：ホルンフェルス	灰黄色
3	土師器 杯	2号竪穴建物 床面	11.6・7.1 3.5	外面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 底部ヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ(指頭圧痕あり)	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) にぶい橙色
4	土師器 甕	2号竪穴建物 床面	18.0・— <5.9>	外面：口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) 橙色
5	土師器 甕	2号竪穴建物 掘り方	—・8.9 —・<3.5>	外面：脚部ヨコナデ 内面：脚部ヨコナデ 体部底ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) にぶい橙色
6	土師器 杯	3号竪穴建物 カマド	13.8・9.5 4.8	外面：口縁部ヨコナデ 体部粗いヘラ削り 内面：口縁部~底部(中央部を除く)ヨコナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好(硬質) 橙色
7	須恵器 杯	3号竪穴建物 床面	13.0・6.3 3.6	外面：ロクロ整形ロクロナデ 底部回転糸切り(右) 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	良好(硬質) 灰色
8	須恵器 碗	3号竪穴建物 床面	14.3・6.8	外面：ロクロ整形ロクロナデ 底部回転糸切り(右) 貼付高台 内面：ロクロナデ 煤付着あり	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	並(やや軟質) オリーブ褐色
9	須恵器 碗	3号竪穴建物 床面	14.5・7.0 5.2	外面：ロクロ整形ロクロナデ 底部回転糸切り(右) 貼付高台 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
10	土師器 甕	3号竪穴建物 カマド	18.0・— <13.2>	外面：口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ハケ状工具による横方向のナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒・角閃石粒	良好(硬質) 橙色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・<残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
11	土師器 甕	3号竪穴建物 カマド	21.0・ — <11.1>	外面:口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部斜め方向のヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ハケ状工具による横方向のナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	良好(硬質) 橙色
12	灰釉陶器 小型長頸壺	4号竪穴建物 床面	— — <6.5>	外面:ロクロ整形 灰オリブ色の釉薬施釉 内面:ロクロナデ	極細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰オリブ色
13	須恵器 埴	4号竪穴建物 覆土	— 7.0 <2.0>	外面:ロクロ整形 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 灰色
14	須恵器 埴	4号竪穴建物 覆土	— 7.0 <2.0>	外面:ロクロ整形 底部回転系切り後貼付け高台 黒斑あり 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
15	須恵器 埴	4号竪穴建物 床面	— 6.4 <2.1>	外面:ロクロ整形 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並(やや軟質) 灰色
16	須恵器 埴	4号竪穴建物 覆土	— 6.6 <2.8>	外面:ロクロ整形 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	不良(軟質) 暗灰色
17	須恵器 埴	4号竪穴建物 掘り方	15.8・ — <5.6>	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 内面:ロクロナデ	細砂粒・黒色粒	並(やや軟質) 灰白色
18	須恵器 埴	4号竪穴建物 覆土	13.6・ 7.4 5.7	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・黒色粒 小礫・褐色粒	並(やや軟質) 灰色
19	土師器 甕	4号竪穴建物 床面	18.3・ — <7.5>	外面:口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部上横方向のヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ハケ状工具による横方向のナデ	砂粒・白色粒 黒色粒	良好(硬質) 橙色
20	須恵器 坏	5号竪穴建物 覆土	12.4・ 5.9 3.7	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
21	須恵器 坏	5号竪穴建物 覆土	13.9・ 7.0 3.4	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 灰色
22	須恵器 皿	5号竪穴建物 覆土	13.2・ 8.0 2.8	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・黒色粒	並(やや軟質) 灰色
23	須恵器 皿	5号竪穴建物 覆土	13.1・ 7.5 2.9	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 灰白色
24	須恵器 埴	5号竪穴建物 覆土	— 6.0 3.2	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
25	須恵器 埴	5号竪穴建物 床面	14.0・ 7.0 5.9	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒・雲母粒	並(やや軟質) 灰色
26	土師器 甕	5号竪穴建物 カマド	18.8・ — <10.1>	外面:口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部斜め方向のヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
27	須恵器 埴	6号竪穴建物 床面	— 6.5 <3.6>	外面:ロクロ整形 底部回転系切り後貼付け高台(高台部欠) 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並(やや軟質) 黒褐色
28	須恵器 皿	6号竪穴建物 床面	13.8・ 6.0 2.4	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ稜線顕著	細砂粒・白色粒 雲母粒	並(やや軟質) 暗灰黄色
29	須恵器 皿	6号竪穴建物 覆土	12.7・ 6.4 3.1	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ稜線顕著	細砂粒・白色粒 雲母粒	不良(軟質) 暗灰黄色
30	須恵器 埴	6号竪穴建物 覆土	— 6.0 3.2	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
31	須恵器 埴	6号竪穴建物 掘り方	— 9.4 3.7	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ 重ね焼き黒斑あり	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(やや軟質) 灰色
32	須恵器 埴	6号竪穴建物 床面	15.0・ 7.2 5.4	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ 煤付着あり	細砂粒・白色粒 黒色粒・小礫	並(やや軟質) 灰色
33	須恵器 埴	6号竪穴建物 掘り方	14.0・ 8.7 5.4	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り後貼付け高台 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 褐色粒	並(やや軟質) 灰黄色
34	土師器 甕	6号竪穴建物 掘り方	— 3.3 <9.4>	外面:体部縦方向のヘラ削り 底部ヘラ削り 煤付着あり 内面:体部ナデ 底部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) 橙色
35	須恵器 壺	1号溝 覆土	— 9.6 <5.9>	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 貼付け高台 内面:ロクロナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色
36	須恵器 坏	2号土坑 覆土	13.5・ 6.1 3.4	外面:ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転系切り 内面:ロクロナデ	細砂粒・白色粒 小礫	並(やや軟質) 暗灰黄色
37	土師器 甕	6号土坑 覆土	18.8・ — <10.1>	外面:口縁部ヨコナデ(コの字状) 体部斜め方向のヘラ削り 内面:口縁部ヨコナデ 体部ハケ状工具による横方向のナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好(硬質) 橙色

VI 総括

今回の調査にて古墳時代から近世までの計3時代の畠跡が検出された。一番古い畠の覆土には、Hr-FAと考えられる黄褐色土が密に含まれることから、耕作された帰属時期は6世紀初頭からさほど時期差がないと推測される。次に古い畠は、覆土にHr-FAと白色軽石(As-C・Hr-FPと考えられる)が含まれる畠で、竪穴建物との重複関係から帰属時期は9世紀以前と考えられる。一番新しい畠はAs-AとAs-Bが覆土に含まれるもので、帰属時期は近世と考えられる。南側で近接して調査された中泉十王堂遺跡では覆土にAs-Cを密に含む畠が確認されており、帰属時期は古墳時代前期と位置づけられている。本遺跡周辺は、古墳時代前期から生産の痕跡が認められ、それを耕作した人々の生活の痕跡が、竪穴建物などの集落跡、古墳および古墳群が構築される墓域として随所に認められる地域で、広域に各時代の遺跡が広がっているものと推測される。

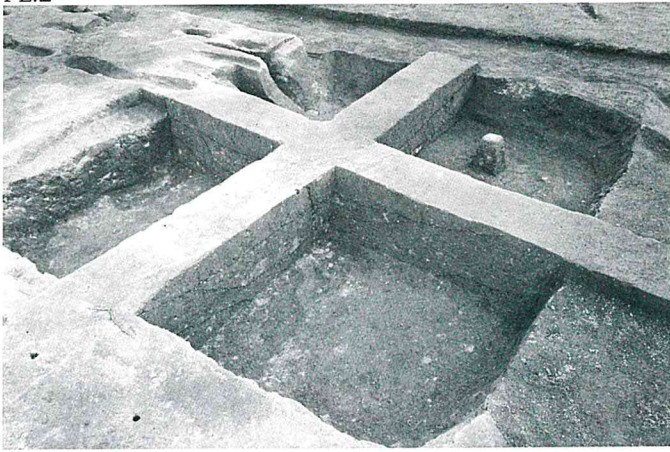
写真図版



空撮 南東から



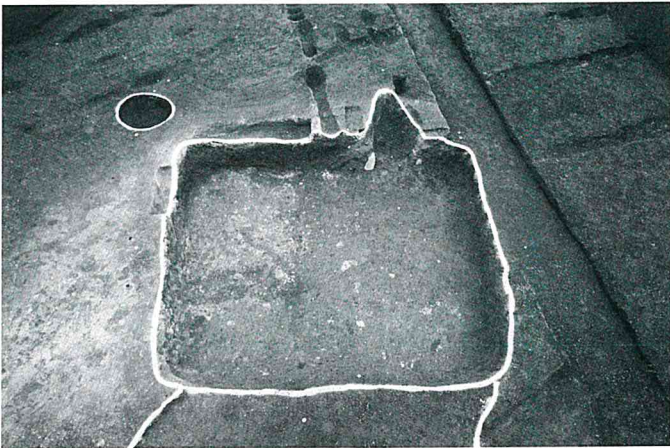
調査区全景 垂直 上が北



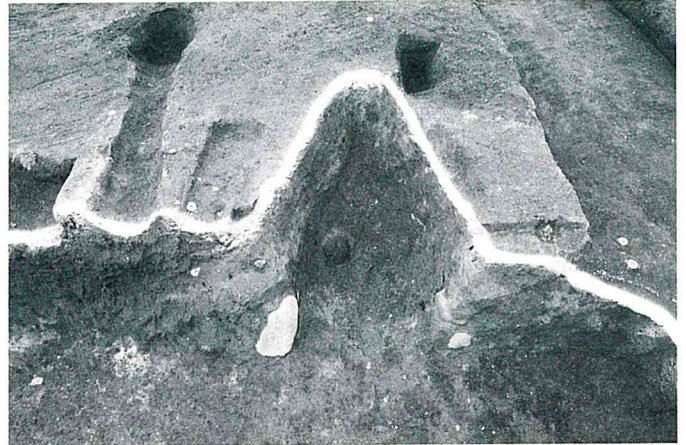
1号竪穴建物A・Bセクション 北西から



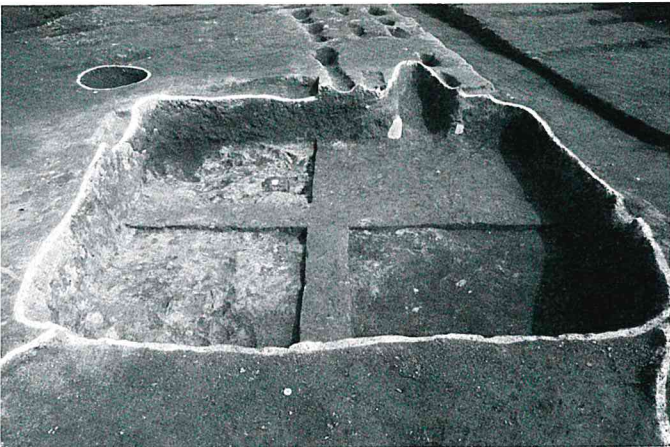
1号竪穴建物カマドセクション 南から



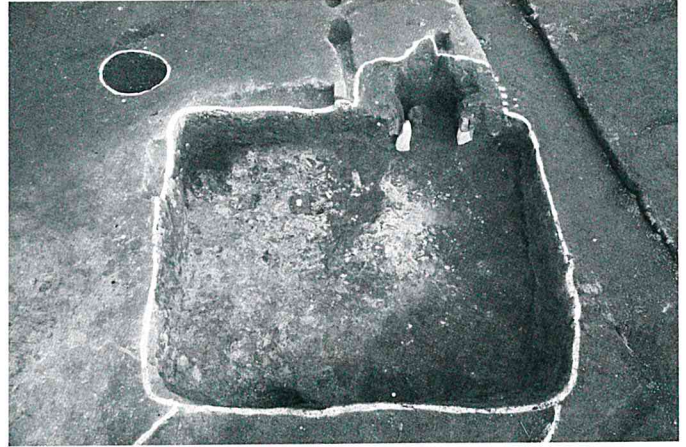
1号竪穴建物全景況 西から



1号竪穴建物カマド全景 西から



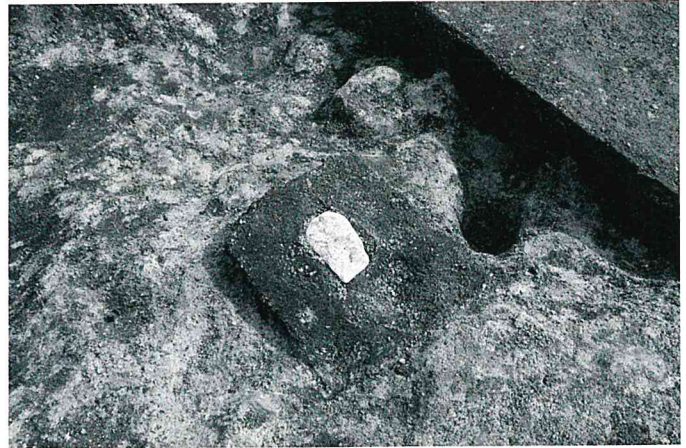
1号竪穴建物掘り方セクション 西から



1号竪穴建物掘り方全景 西から



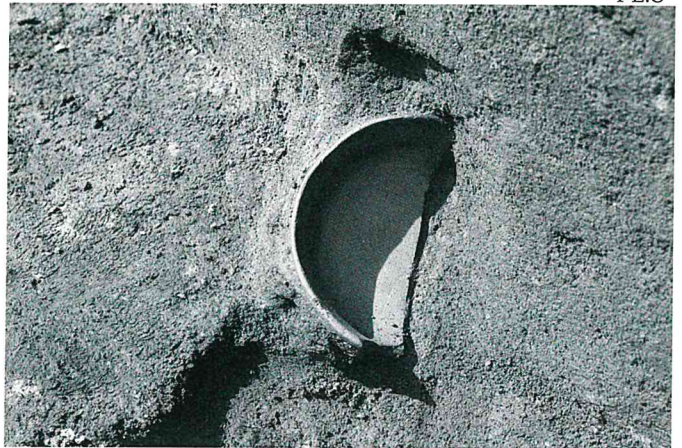
1号竪穴建物カマド掘り方（構築石材残）全景 西から



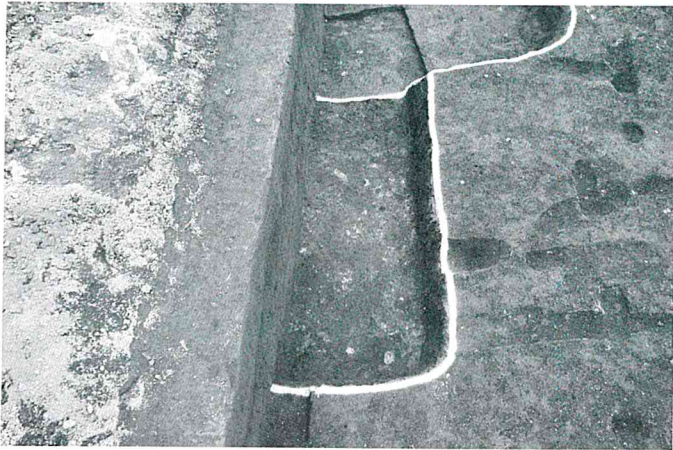
1号竪穴建物掘り方遺物No.2出土状況 北西から



2号竖穴建物 A セクション 南から



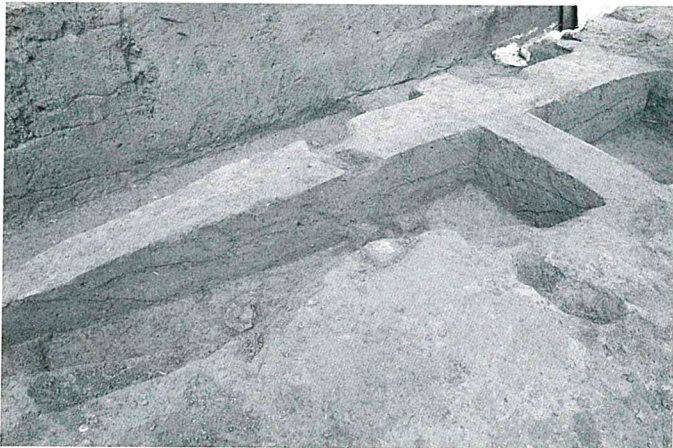
2号竖穴建物 遺物No.3 出土状況 西から



2号竖穴建物全景 西から



2号竖穴建物掘り方全景 南から



3号竖穴建物 A・B セクション 南東から



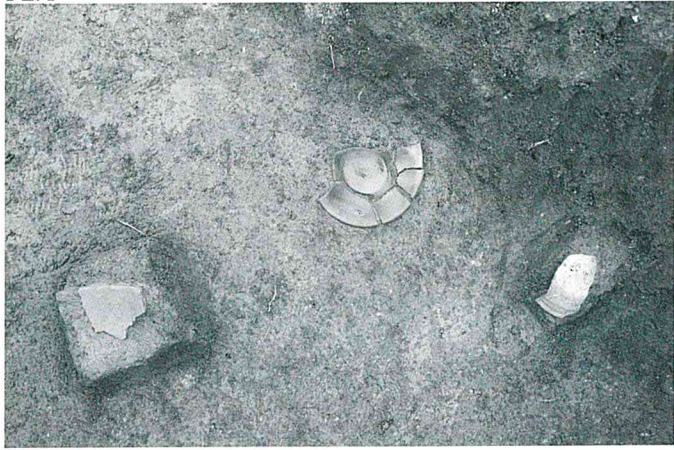
3号竖穴建物カマドセクション 南西から



3号竖穴建物遺物出土状況全景 西から



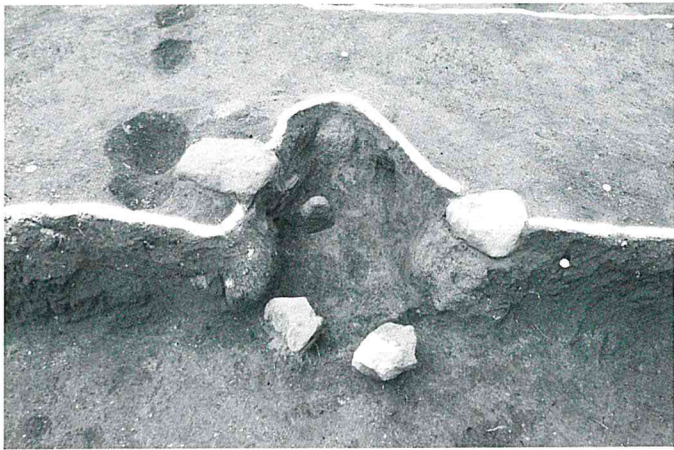
3号竖穴建物カマド遺物No.6・10・11 出土状況 西から



3号竪穴建物遺物No.7・9出土状況 西から



3号竪穴建物全景 西から



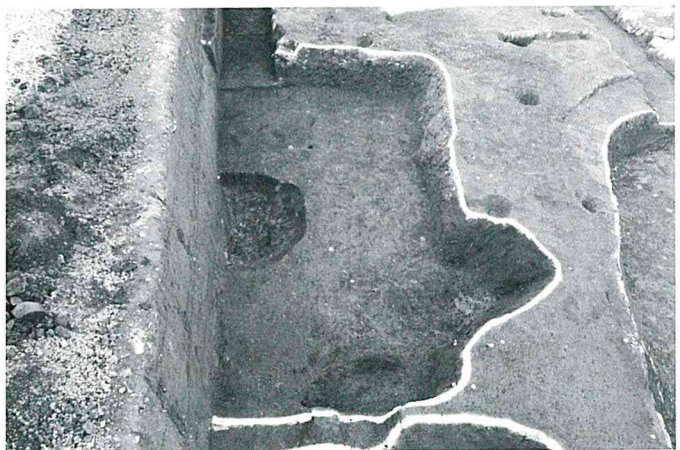
3号竪穴建物カマド全景 西から



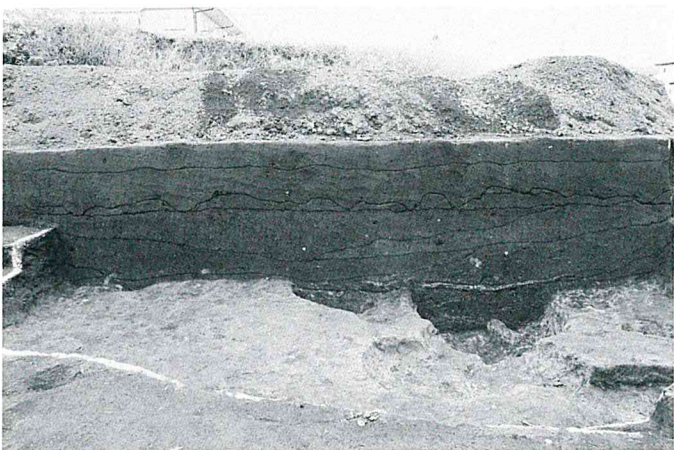
3号竪穴建物カマド構築材検出状況 西から



3号竪穴建物カマド掘り方全景 南西から



3号竪穴建物掘り方全景 南から



4号竪穴建物Aセクション 西から



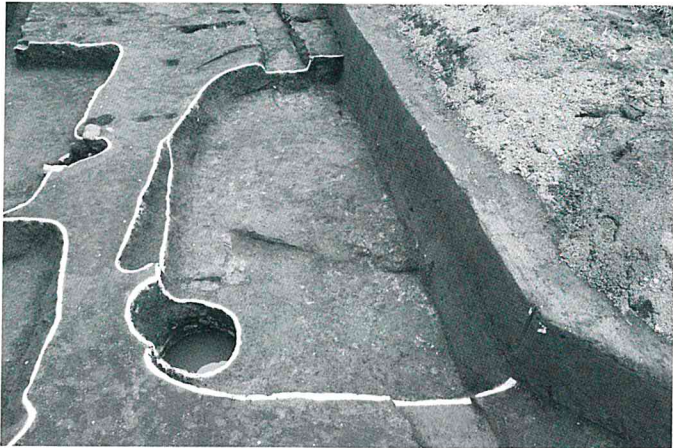
4号竪穴建物遺物出土状況全景 西から



4号竪穴建物遺物No. 16 出土状況 北西から



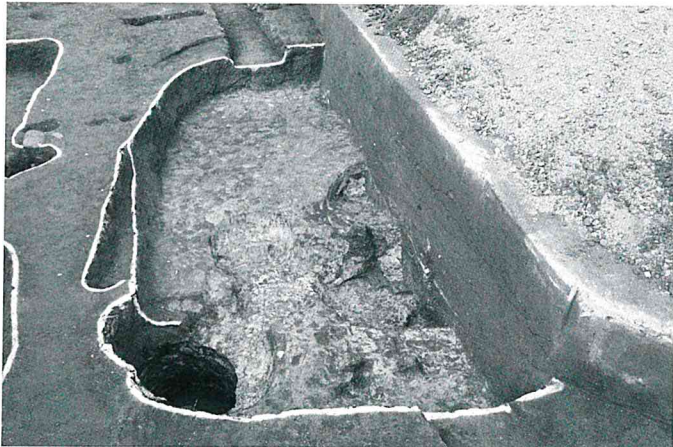
4号竪穴建物遺物No. 15・12 出土状況 東から



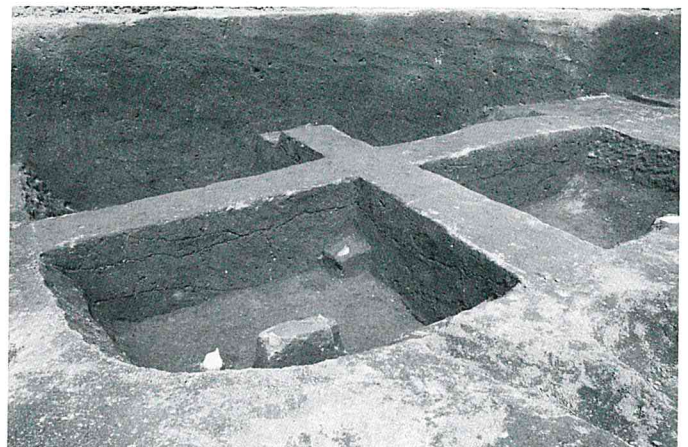
4号竪穴建物全景 (重複7号土坑・2号井戸) 全景 南から



4号竪穴建物掘り方A・Bセクション 南西から



4号竪穴建物掘り方全景 南から



5号竪穴建物A・Bセクション 南西から



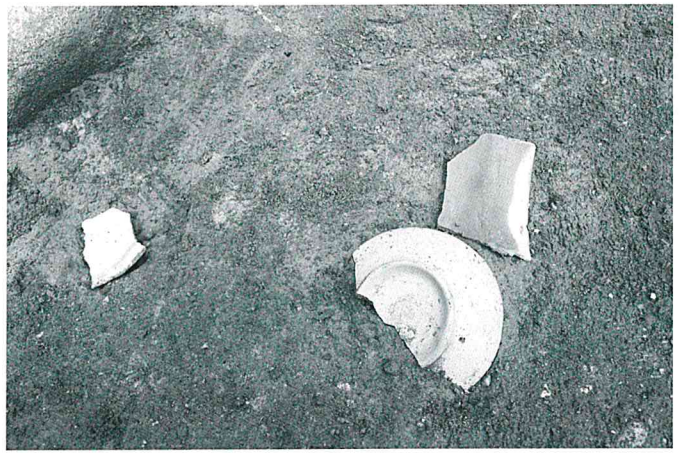
5号竪穴建物カマドセクション 南西から



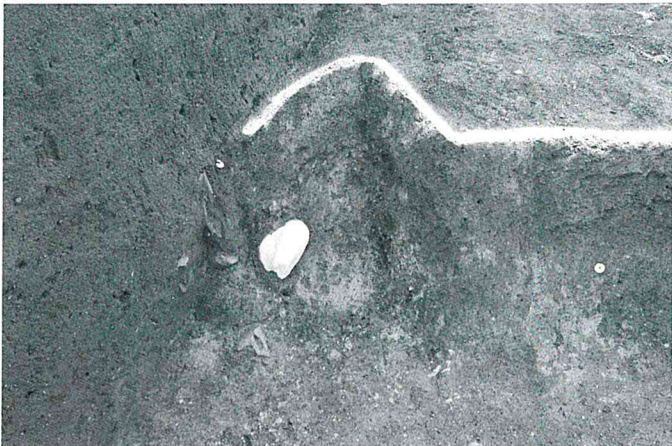
5号竪穴建物遺物出土状況全景 西から



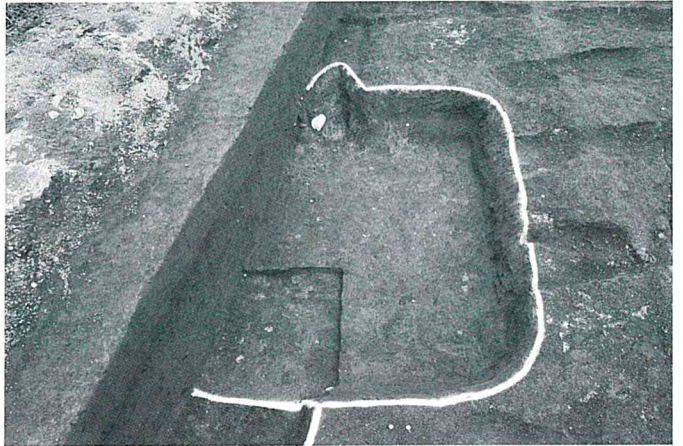
5号竪穴建物カマド遺物No.26 出土状況 南西から



5号竪穴建物No.23・24 出土状況 西から



5号竪穴建物カマド全景 西から



5号竪穴建物全景 西から



5号竪穴建物掘り方全景 西から



6号竪穴建物A・Bセクション 南東から



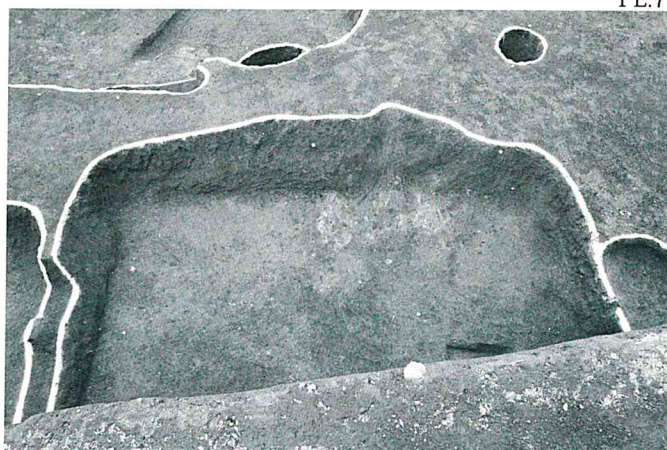
6号竪穴建物遺物出土状況全景 西から



6号竪穴建物カマド前面遺物No.27・28 出土状況 北から



6号竖穴建物遺物No.32 出土状況 東から



6号竖穴建物全景 西から



6号竖穴建物掘り方遺物No.31 出土状況 南西から



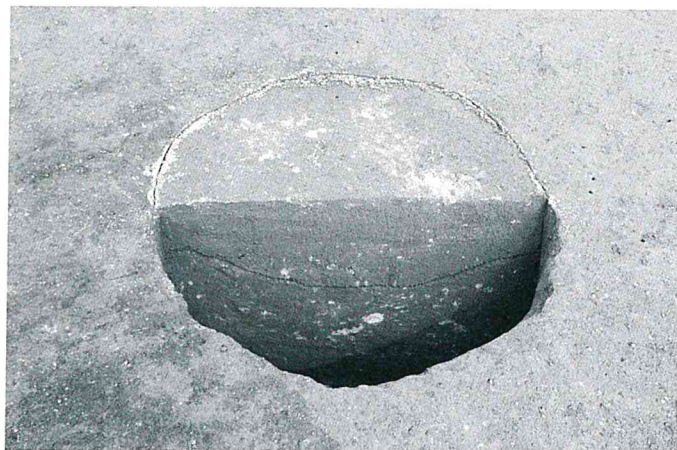
6号竖穴建物掘り方全景 南から



1号井戸A セクション (白色部分はAs-B主体層) 北から



1号井戸全景 北から



2号井戸A セクション 南西から



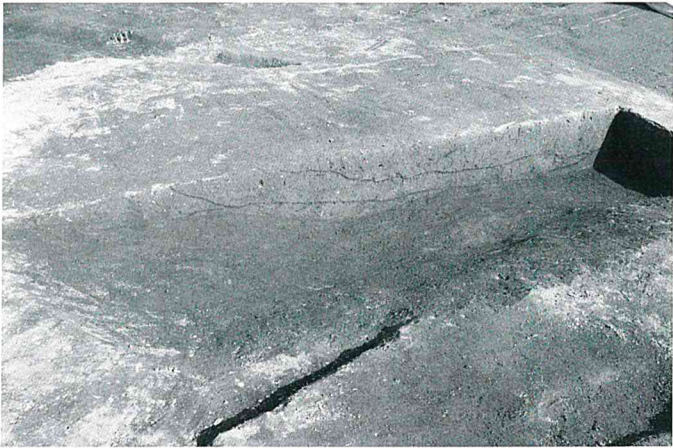
2号井戸全景 南西から



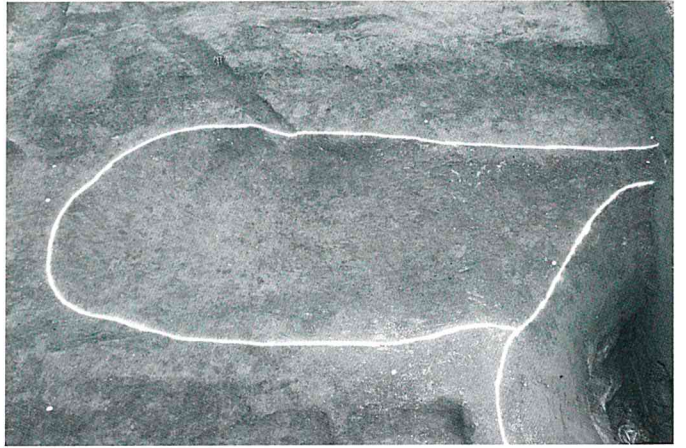
1号溝全景 北から



2号溝・10号土坑全景 南から



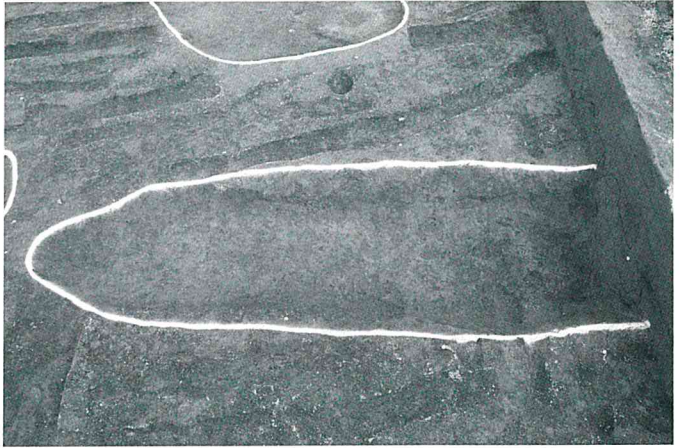
1号土坑Aセクション 北西から



1号土坑全景 西から



2号土坑Aセクション 南西から



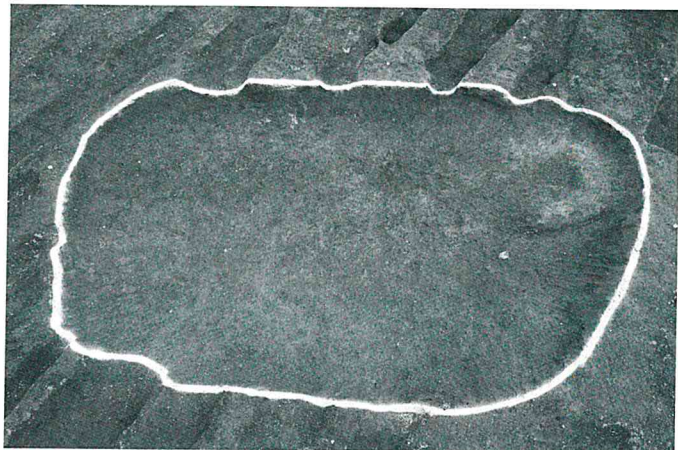
2号土坑全景 東から



3号土坑Aセクション 南東から



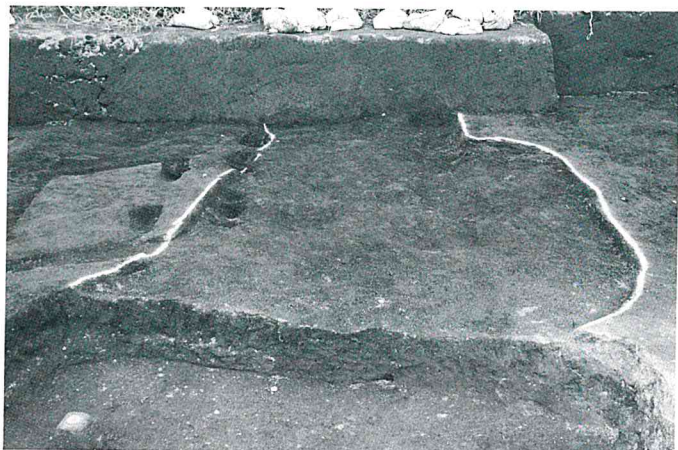
3号土坑Cセクション 南東から



3号土坑全景 南東から



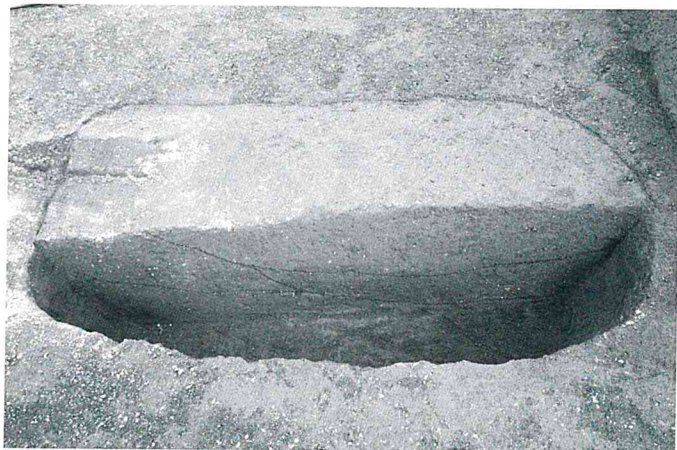
4号土坑A・Bセクション 南から



4号土坑全景 (手前は1号住居) 東から



5号土坑全景 南東から



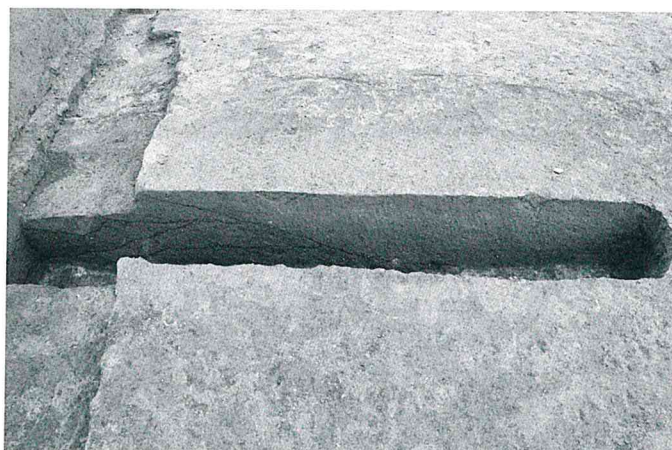
6号土坑Aセクション 西から



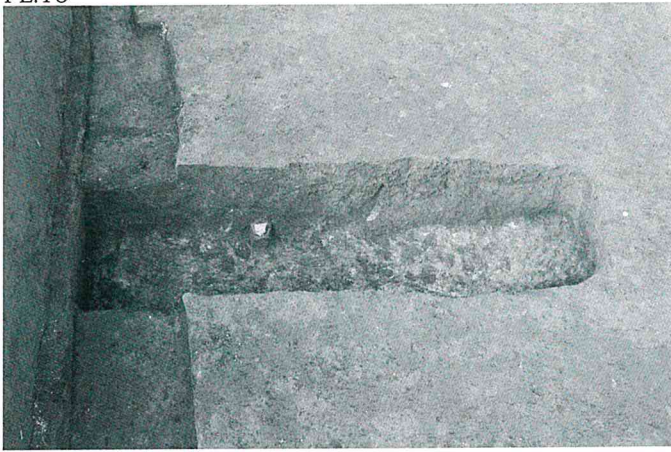
6号土坑全景 西から



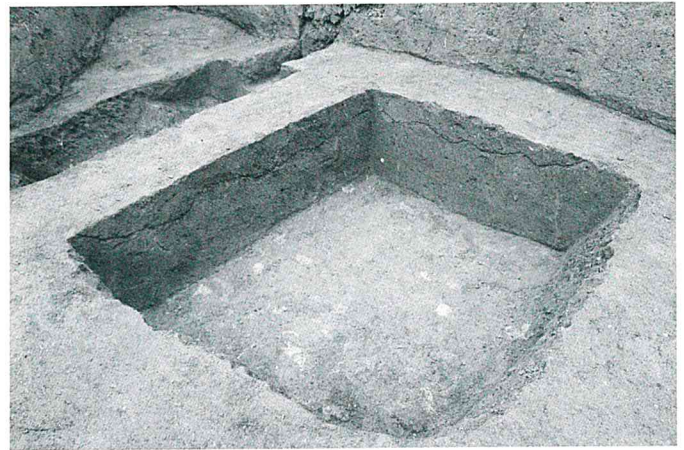
8・9号土坑全景 西から



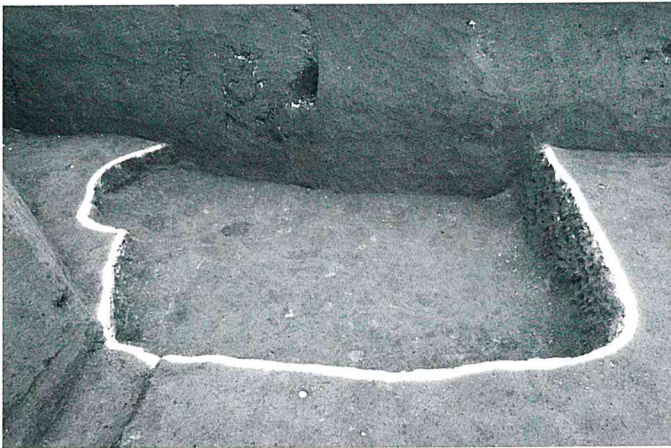
11号土坑Aセクション 南から



11号土坑全景 南から



12号土坑A・Bセクション 南西から



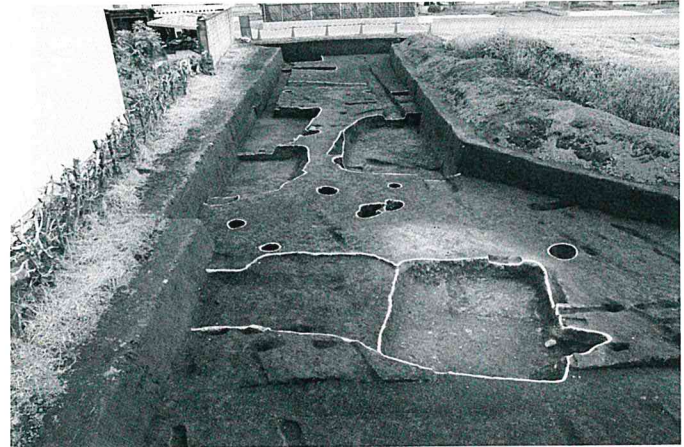
12号土坑全景 南から



3～10号ピット全景 北西から



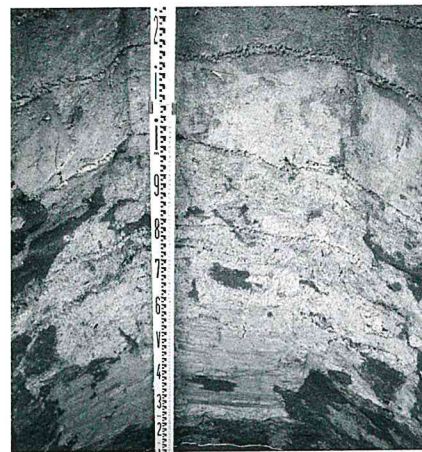
島跡Kセクション 南東から



調査区北側全景 南から

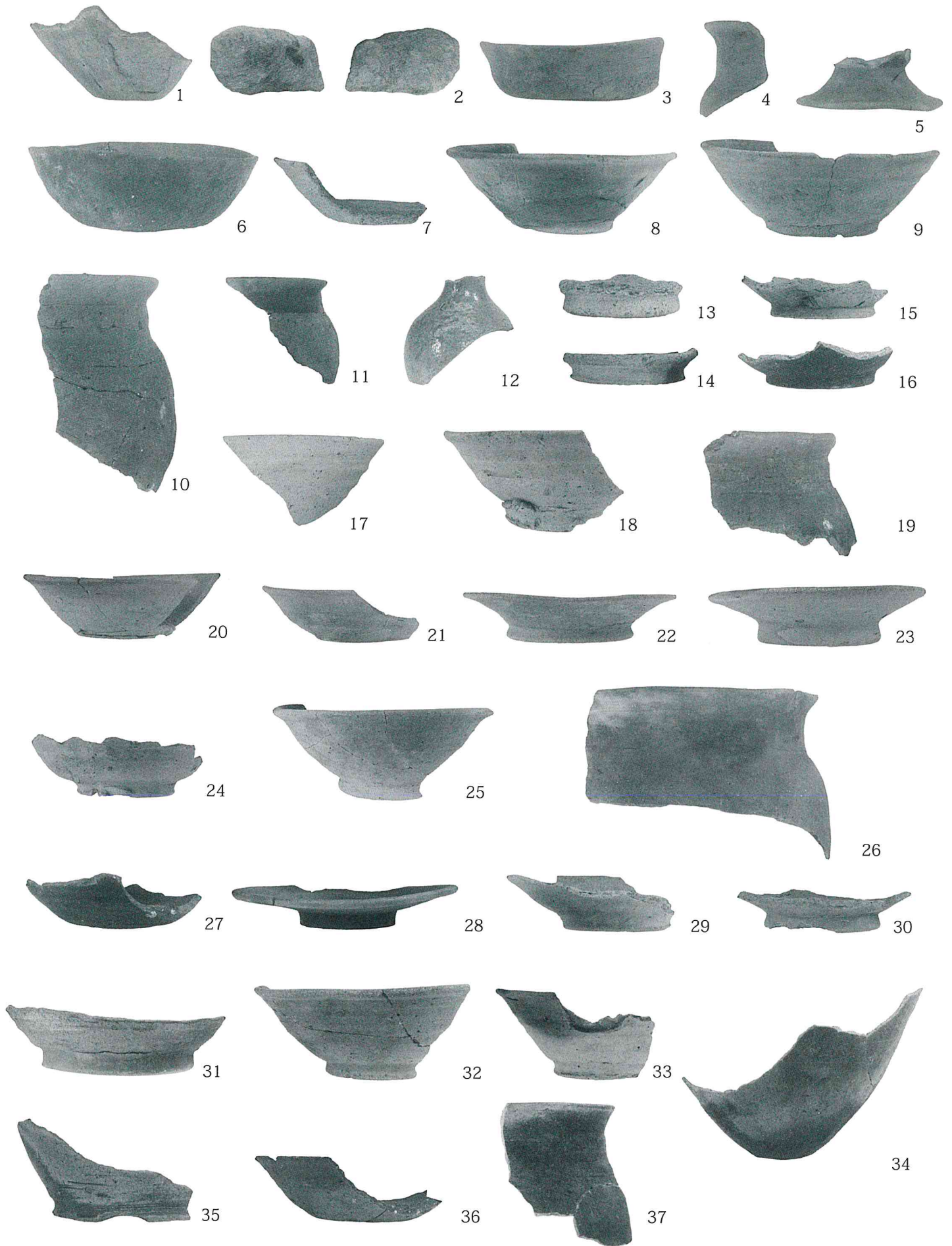


調査区東側 作業風景 東から



- X層 漸移層
- XI層 黄橙色土 8/8
粘質土
- XII層 浅黄橙色土 8/4
粘質土やや砂質
- XIII層 明黄褐色土 8/4
粘質土鉄分沈着
- XIV層 浅黄橙色土 8/3
粘質土
带状に鉄分沈着

2号井戸壁面使用X層下湧水まで 基準土色帖 Hue10YR 使用



出土遺物写真

参考文献

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県

群馬町誌編纂委員会 1998『群馬町誌 資料編1 原始古代 中世』群馬町誌刊行委員会

高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書 高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市

高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代II』高崎市

日沖 剛史 2016『中泉十王堂遺跡』 有限会社 毛野考古学研究所

澤田 福宏 2018『中泉十王堂遺跡2』 有限会社 高澤考古学研究所

報告書抄録

フリガナ	ナカイズミジュウオウドウ イセキ ヨン
書名	中泉十王堂遺跡4
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第470集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市正観寺町665番地8
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	令和3年(2021)年10月1日

所収遺跡名	中泉十王堂遺跡4						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市中泉町字十王堂78番1、78番2、79番1、79番3						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	808	36° 22' 36"	138° 59' 54"	2020713	2020930	401.64㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中泉十王堂遺跡4	集落	平安時代	竪穴建物 土坑・ピット・溝	土師器 須恵器	計3時期の畠跡を検出
	生産	古墳～近世	畠跡		

— 中泉十王堂遺跡 4 —

高崎市文化財調査報告書第 470 集

令和 3 年 9 月 25 日 印刷
令和 3 年 10 月 1 日 発行

発行 高崎市教育委員会
文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所

印刷 上武印刷株式会社

